

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1128

「NEWSな濟生人」

「戦略的広報」の確立

第3期中期事業計画スタート



6

June 2023

社会福祉法人

恩賜
財団

濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。

今日を未来へとつなげていくために。

私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。

いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。

これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。



SMBC
三井住友銀行

濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂

Shigeru Sumitani



「濟生会学」事始め

やはり対面で話し合うのは違う。

毎年4月、濟生会では支部長、

医療施設長、看護部長・看護師

養成施設副学校長に東京・三田

の濟生会本部に集まっていただ

き、当該年度の経営方針につい

て会議をする。今年度は、新型

コロナの感染が落ち着いたので、オンラインではなく、多くの人が実参加だった。

最近、新型コロナウイルスのためオンラインの会議が多い。音声や映像の精度が良くなったので、円滑にコミュニケーションができる。移動時間や交通費の節約に

なる。何よりも感染対策に効果がある。

情報の一方的伝達や法律で形式的に会議を開催しなければならぬケースは、オンラインのほうが効率的経済的である。これらは今後も大いに活用すべきだ。

しかし、実際に対面でないとお互いの思いや感情が、十分に伝わらないのも事実だ。相手の表情が読めないと、発言すべきか躊躇することもある。

会議終了後は感染対策に十分留意して、4年ぶりに懇親会を開催した。この間に新たに就任した人も多い。初対面の人と話すことができ、楽しかった。何よりも新型コロナウイルスが猛威を奮っていた時の病院の苦闘ぶりを聞き、痛烈な印象が残った。

「看護師が次々に感染し、看護体制が組めなくなった。しかし、救急車で患者が運ばれてくる。残った看護師が頑張ってくれた」と、ある看護部長が話した。隣からは「私のところも同じだった。それでも離職した人は、いなかった。そこは濟生会だから」と言う。

そんな話に、胸が熱くなった。

☆ ☆

新型コロナウイルス蔓延時、国民の命が危機的な状況の時に、濟生会の本領が発揮された。どんなことがあっても濟生会は、逃げない。国民の健康と暮らしの最終ラインを守り抜くことを使命としてきた。

濟生会とはどんな存在か。これを57年前に福祉国家論の勉強を始めた時から、日本の歴史において大和朝廷以来の皇室が果たした伝統に立つ濟生会の使命について考え続けてきた。異例だったが、厚生省社会・援護局長（当時）の時に、濟生会総会で1時間にわたって濟生会の使命と期待について訴えた。いわばそれまでの知と経験の蓄積による「濟生会学」だった。

当時は部外者としての生硬で粗削りなものだったが、基本的考えは、今も変わらない。

濟生会は今年で112年が経つ。時代の変化が激しい。濟生会の向かう課題は、増大する一方だ。今年度からはウイズコロナという異次元のステージに立つ。それにふさわしい新たな「濟生会学」の事始めとしたい。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するとき用いた。

濟生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。



濟生

SAISEI

CONTENTS
JUNE, 2023

NEWSな濟生人

「戦略的広報」の確立。
第3期中期事業計画スタート
濟生会広報委員会委員長
和歌山県濟生会支部長・
有田医療福祉センター総長 06

伊藤秀一さん

コラム「人同士がつながる広報の実践を！」

濟生会交差点

《SNSによる妊産婦支援》Instagram配信と対面指導。ハイブリッドで独自の母親学級／《一人ひとりに合わせた食の支援》業務中心→子どもの目標へ。グループ分け変更で「楽しく食べる」環境づくり／《病院車両を活用した買い物支援》買い物に不便を感じている地域住民を救いたい！笑顔を乗せて「買い物バス」が走る 12

巻頭コラム 濟生会の不易流行論 03
「濟生会学」事始め 理事長 炭谷 茂

6月のたよりが聞こえる——夏椿 05
表紙のことば 久保田眞由美

ソーシャルインクルージョン 18

この人 坂巻有紗 22

口福にっぽん 吉井省一 24

だれでもかんたん てづくりおもちゃ 26
いまいみさ

TOPICS 28

載々、大雑報 63

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

6月のたよりが聞こえる

夏椿

毎年6、7月ごろに白いツバキそっくりの花をつける。ほとんど花の



まま落ちるのもツバキと同じだが、花は1日しかもたず、冬には落葉する。常緑のツバキ科の「異端児」だ。別名シヤラノキとも呼ばれる。こ

れは、お釈迦様が入滅するとき咲いていた沙羅双樹と、江戸時代の間違わされたため。もつとも「椿」の字自体、古代に漢字を移入したときにツバキの和名に違う木の字を当てたとされている。本家の中国では、ツバキは海(石)榴や山茶で、椿と書けばチャンチン(香椿)という別のセンダン科の樹木を指すからだ。

違った字を当ててしまった例は幾つもある。例えば柏餅でおなじみの柏は広葉樹だが、中国では針葉樹の檜の仲間のこと。ただ、盆栽の世界では、松と双壁を成す檜の仲間を「真柏」と呼び、ちゃんと修正している。

ではツバキという和名に、なぜ椿の漢字を当てたのか……。

違うと知っていてわざと当てたと故意説を採るのは、和製漢字である国字研究の第一人者・笹原宏之氏

「日本の風土や自然、そして感性に合わせて、あえてあてがわれた読み方だったのだろう」(「漢字に託した日本の心」NHK出版新書)。その根拠として、すでに紀元前3〜4世紀に書かれた中国の古典「莊子」に椿が違う種類の霊木として登場していることを挙げている。それを後世、漢字を移入した日本人が読んでいなかったはずはないというわけだ。もちろん、たまたま間違っただけという偶然説を完全に否定はできないが、出版社で漢和辞典などの編集に携わっていた円満字二郎氏は「確信的に生み出された可能性が大」とまで述べている(「漢字の植物苑」岩波書店)。木偏に春。厳しい冬の先に春が来ることを予感させる椿の字。もし、夏椿が春の椿より先に着目されていたらきつとツバキは木偏に夏。でもそうならいたら、エノキの榎ほどんな字に？

(Y)

表紙のことば

涼やかに咲く白い花

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

夏になると白い服が着たくなる。そんなことはありませんか？夏の白は目に眩しくとも美しく見えます。暑さが始まるこの季節、柔らかい葉陰で涼しげで清らかな花を咲かせてくれるナツツバキ。平家物

語の冒頭を彩る「沙羅双樹の花」と思われていたようです。祇園精舎の鐘の音がどんな音かは知らないのですが、ナツツバキには澄んだ涼しげな音がよく似合いそうな風鈴と、一緒に。

「戦略的広報」の確立 第3期中期事業計画スタート

済生会広報委員会委員長

和歌山県済生会支部長・有田医療福祉センター総長

伊藤秀一さん



NEWSな済生人 Interview

済生会の第3期中期事業計画が2023年4月にスタートしました。広報を経営戦略の中に位置づけ、地域住民に限らず本会職員に向けてメッセージを発信する「戦略的広報」の実践が求められています。済生会の広報委員長・伊藤秀一さんに済生会広報が目指すものを伺いました。

（本部広報室 杉山菜央）

杉山 私は4月に広報室に配属されました。早速ですが、なぜ済生会には広報が必要なのですか？

伊藤 病院や施設を運営していくうえで地域の方々から信頼を得るといのは、一番大切なことです。日本の国家財政はますます厳しくなり、医療・社会福祉への財政支出は減少傾向になるでしょう。その中で済生会が生き抜いていくための経営基盤として信頼関係は必須となります。

杉山 それには広報が大切ということですか？

伊藤 地域に対する広報活動は、信頼関係を強固にするために役立ちます。済生会の病院や施設は広報活動を積極的に行なって地域社会とのコミュニケーションを図ってほしいです。





「広報委員会」と「広報官」の設置を！



有田病院外来ロビーで。左はインタビューの杉山さん

杉山 有田病院ではどのようにして地域との信頼関係を築き上げてきたのですか？

伊藤 一つには「健康フェスタ」があります。20年以上前から有田病院健康祭りとして毎年秋に開催していましたが、現在は有田医療福祉センター（有田病院・老健ライフケア有田・特養潮光園）として取り組んでいます。

杉山 それはどのようなものですか？

伊藤 医療・看護・介護の講演や相談会、頸動脈エコーや

体内年齢測定、骨密度検査など盛りだくさんです。私も毎回参加して講演と医療相談を行なっています。AED実習のほか、スパーボールすくいや写真撮影会など子ども向けイベントもあります。地元高校のマンドリンクラブ演奏、フラメンコサークル出演など、地域の皆様に協力してもらっています。

杉山 本当に盛りだくさん！

伊藤 有田医療福祉圏の各地を巡回しているため準備が大変ですが、有田医療福祉圏の外へ出向くこともあります。例年5月末から健康フェスタ実行委員会を立ち上げ、10月〜11月に各地の文化祭などとコラボしながら実施しています。

杉山 他にも何かありますか？

伊藤 私自身が地元ラジオに出演しています。かつて地方新聞で医療相談のコラムを執筆していたことがきっかけで、WBS和歌山放送から約30年前の和歌山県立医大第2内科講師時代に出演を依頼されました。医大助教授、教授時代と続き、有田病院に



地域の信頼を得るために病院から出向いて直接語り掛けることが重要【ラジオ収録（左）と健康フェスタでの講演】

※写真撮影時のみマスクを外しています

広報の担い手が誇りを持って働ける 環境づくりは、経営幹部の責務



有田医療福祉センターの広報委員会。会議では活発な意見が飛び交う

赴任してからも続いています。

杉山 どんな話をするのですか？

伊藤 消化器や肝臓疾患がメインで、例えば「アルコールの飲み方と病気」といったものです。年に3〜4回収録し、一度収録すると2週間放送します。私は録音のやり直しをしたことがないので、ラジオ局からは、その辺も評価され長続きしているようにも思います。数年前

に大向伸正広報官と一緒に収録に行き、写真撮影やポスターを作成し、院内に提示してからは、通院患者さんにも知られるようになり、評判になりました。広報活動の成果を実感できました。

広報委員会と広報官

両輪の活躍が病院広報のポイント

杉山 大向伸正広報官とはどのような方ですか？

伊藤 大向さんは有田病院の医療福祉部長（MSW）です。主な仕事は地域医療連携、無料低額診療事業推進などです。

杉山 広報官の役割は？

伊藤 マンパワーにゆとりがないので広報官はあくまで兼務ですが、有田医療福祉センターの広報誌「渚有」の取材・編集、「なでしこ連携医の会」の企画・運営、開業医・地方マスコミ・行政への連絡・訪問、広報

委員会業務などがあり多忙です。併設の老健ライフケア有田や特養潮光園の渚生記者と連携し、機関誌「渚生」への投稿にも力を入れていきます。大向さんは明るい性格で皆から好かれていますね。有田病院の広報委員会委員長の青石博文技監（医療技術職代表）も親しみやすい性格なのでいいコンビを組んでいます。

杉山 広報委員会と広報官の両輪が機能することが大切なのですね。

伊藤 私は全ての済生会病院に、広報委員会と広報官（広報担当者）の存在が必要であると考えます。でき

れば福祉施設にも広報委員会と広報官があるのが理想です。広報委員会が無理であれば、せめて広報官だけでも作ってほしいです。

杉山 広報官はどういう方が適任ですか？

伊藤 あて職的に代々の総務係長が務めるというのはダメです。適性のあるコミュニケーション能力の高い広報官を院長や施設長が指名するというのが良いでしょう。そして、組織として広報担当者「広報官」という肩書を与えて手当を支給する。広報官が誇りを持ち、やる気が出るような環境づくりが大切です。

杉山 経営トップが適性を見抜いて指名す

連日開かれた感染対策会議で職員の意思統一を図った



接触者外来やお薬相談コーナーを直ちに設置。住民の不安軽減に職員一丸で取り組んだ



徹底した職員の体調管理やPCR検査の実施などで感染拡大を防ぎ、院内感染発生から約3週間で安全宣言を行なった

るのですね。

伊藤 はい。そういう意味では、院長や施設長の考え方が重要です。医師会、病院団体、大学などに関わる「院外業務」が多い院長は経営感覚に優れているように見受けられます。広報も様々な「関わり」が重要。院長や施設長には、ぜひとも広報委員会と広報官を作ってもらって活用してほしいですね。

国内初の新型コロナ院内感染 そこで見えてきたものは

杉山 有田病院は2020年2月、国内初の新型コロナ院内感染が判明しました。どのような広報をしたのですか？

伊藤 2月13日夕刻に、外科医の感染が判明、日本中を騒がす大事件となりました。

当時病院長だった私はその日のうちに和歌山県の方針よりも厳格に全ての病院機能の停止と病院閉鎖を決定しました。翌日は早朝から「感染対策会議」を土・日・祝日関係なく連日30分ほど開き意思統一を図りました。会議に出席した幹部職員は結果を所属職員に伝達。必要に応じて私も個別に電話やメールを相当数発信しました。

杉山 マスコミへの対応は？

伊藤 記者会見は「病院安全宣言」が出せ

る日にすることを決めていました。しかし、

情報を全く出さないと非難の対象になります。そこで病院内の診療体制が落ち着いたところで、院内の感染状況と対策をまとめた情報提供書をマスコミに配布しました。これは一方通行ののですが、ある程度の効果があったと考えています。

杉山 トップには素早い判断と初期対応が求められますね。

伊藤 突発的感染症や大災害、医療事故などの危機管理には病院長の基本的な考え方や行動が非常に重要です。職員の誰もが病院長を頼りにしま



すので、病院長は様々な危機に対応できるような普段からコミュニケーションしておく必要があります。少なくとも感染症、大災害、医療事故、患者さんへの暴力と

いった職員の犯罪を想定しておくべきです。杉山 コロナ感染による職員への偏見や差別はありましたか？

伊藤 報道翌日から偏見や差別がありました。一番多かったのは職員家族に対して「出勤しないしてほしい」「当分来なくていいです」といった出勤停止です。職員の子どもが保育園から登園を拒否されたことも相当数ありました。それだけ地域の人々がコロナ感染に対する恐怖が強かったものと思わ



京都済生会病院（下）からスタートした「がんばろう！ 済生会」。本部（上）も参加した

れます。

杉山 それらに対して有田病院はどのように対応したのですか？

伊藤 それらに対する反論などは行ないませんでした。主な理由は地域住民の恐怖反応からくる一過性のもものと予想したからです。職員が感染対策と関係機関への連絡などで超多忙だったことも一因ですが、このようなパンニック状況での広報活動は非常に難しい……。感染症の恐怖に対する広報は、国が初期から積極的に行なうべきであると考えます。医療現場から地域に広報するのは困難です。

杉山 職員が疲弊する中で京都済生会病院が発案し、機関誌「済生」でリレーした「がんばろう！ 済生会」は「勇気づけられた」という声を聞きました。

伊藤 広報活動の基本は内部情報をうまく外部に発信していくことですが、「がんばろう！ 済生会」のようにスローガンで訴えていく方法の有効性を示した例であると思います。広報活動で多様性を持つことの大切さを示してくれた一例でした。

杉山 済生会には「広報実務研究会」という横断的研究組織があります。この活動に期待することは何ですか？

伊藤 広報の充実・強化を目的に熱意をもって取り組み、まれていることを活動報告書から確認しています。研究会ですから先鋭的に活動することもありますが、多くの方が気軽に参加できる環境が望ましいと思います。皆様方の参加を期待します。

広報とは対話関係を つくること

杉山 最後に済生会が果たすべき使命や役割への理解を深めてもらうために広報がすべきことは何ですか？

伊藤 無料低額診療事業やなでしこプラン、ソーシャ

ルインクルージョンに基づくまちづくりといった済生会の使命を伝えることは大切ですが、広報して終わりという一方通行ではいけません。国民の本音という「ニーズ」を確実に捉え、済生会がどう対処していくかが大事です。病院や施設は地域社会とのコミュニケーションを密にして信頼関係を築いていくことが大切です。

杉山 広報室に配属されて仕事にやりがいを感じています。広報で何ができるか、毎日を楽しみます。

伊藤 有田病院が新型コロナウイルスの安全宣言をした2020年3月4日、その模様を伝えたテレビに映った患者さんがマスコミの取材に答えて「この病院は、絶対必要です！」と言っているのを見て本当にありがたいと感じました。広報とは対話関係をつくり信頼を築くこと。杉山さんの今後の活躍を期待しています。

【取材を終えて】

私は広報についてまだまだ勉強中の身ですが、今回の取材を通して、広報活動の重要性を学ぶとともに自分の役割を改めて考えるきっかけとなりました。お話の中で、伊藤さんに初めての取材で緊張していることを伝えた際に、「緊張するから結果が出る」とのお言葉をもらい、緊張は悪いことじゃないんだなと思ひ、これからの取材や人と会う機会の時が楽しみになりました。たくさんの方々信頼関係を築き、全国に済生会ファンを増やせるよう頑張ります！

（杉山菜央）

地域に使命を伝えるだけでは不十分
住民のニーズを確実にとらえて行動する



カメラを向けると自然とガッツポーズが出る。青石氏（右）と大向氏（左）

有田医療福祉センター

人同士がつながる広報の実践を！

伊藤さんが先導し、広報委員会と広報の両輪で進める有田医療福祉センターの広報体制を紹介します。（本部広報室）

有田医療福祉センター広報委員長

（有田病院リハビリテーションシヨン技師長）

青石博文

有田医療福祉センターは、医療と介護

が完結できる急性期ケアミックス型の施設です。そのため、同センターの広報委員会は伊藤総長をはじめ、大向広報官、有田病院、老健ライフケア有田、特養潮光園のスタッフで構成。皆とても明るく会議では活発な意見が飛び交います。

主な活動は新しい施設や診療科の紹介、無料低額診療事業の報告、健康フェスタの開催、地域住民への回覧板、地元新聞社や企業・団体への情報提供などです。

当センターのある和歌山県湯浅町は紀伊半島西部に位置し、しょうゆ発祥の地として有名です。安政元年大地震で発生した大津波から住民を救った浜口梧陵氏の「稲むらの火」でも知られています。

5月になるとミカンの花が咲き甘くさわやかな香りが町を包み込みます。和歌山にお越しの際はミカンを四つに分けて豪快に食べる「有田むき」で満足感と爽快感を味わってください。

有田医療福祉センター広報官

（有田病院 地域医療福祉部係長・MSW）

大向伸正

私は2015年11月に広報官に就任、8年が立ちました。医療機関の機能分化

が進む中で、当センターの取り組みを地域に知ってもらおう広報活動はとても大切にしています。

広報官は当センターと地域とのより良い関係を構築する架け橋です。院内外の情勢変化を見極め、行政や医療機関、福祉施設との連携はもとより地域住民とのつながりを深めていくことが重要です。

広報は「取り組む事業を伝える相手がいるから成り立つ」と考えています。人同士が直接つながる広報、情報でつながる広報の両輪で活動を推し進め、一つひとつのつながりを大切にして地域に貢献できるように、これからも取り組んでまいります。



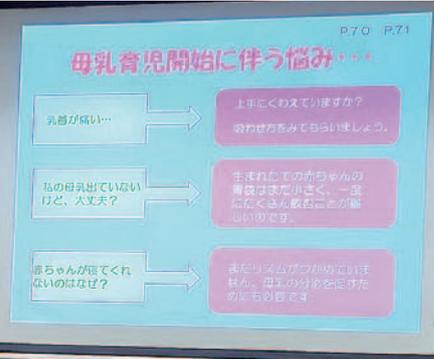
済生会と地域をつなぐ「済有」

インスタグラム配信と対面指導

ハイブリッドで 独自の母親学級



対面指導の母親学級で行なうグループワークでは、妊産婦さん同士のコミュニケーションにより交流が生まれる



SNSによる 妊産婦支援

（埼玉）川口総合病院
産婦人科管理師長
（助産師）
酒井明美

当院ではマタニティサポ

ートとして、スタッフ

が作成したマタニテ

イハンドブックの配

布や妊産婦相談など

を実施しています。

特に毎月10回、妊産婦

さんに正しい知識を得て

もらうために「母親学級・

両親学級」を積極的に開催。

妊娠中の過ごし方や産後の入

院生活、赤ちゃんがいると変

わってくる生活などの内容を

発信しています。

妊産婦さんたちからは「助

産師さんと直接話ができて出

産のイメージが湧きました」

「グループワークではほかの妊

婦さんと話ができてよかつ

た」と好評

でした。し

かし、新型

コロナが流

行するとハ

イリスクで

ある妊産婦

さんの感染

の危険を減

らすため、

感染者数の動向を見ながら開

催・中止を繰り返していました。

何か違う形での支援方法がな

いか検討していたものの、22年

以降、オミクロン株が流行する

と、当院にかかりつけの妊産婦

さんたちの感染や、埼玉県から

の陽性妊産婦の受け入れ要請が

増加。検討すらままならない状

況になってし

まいました。

当院での分

娩数も減少し、

産科病棟は22

年6月から婦

人科・消化器

内科との混合

病棟になると、

人員不足や慣

れない高齢患

者へのケアに

奮闘する中で

赤ちゃん人形を持つ筆者。この人形は、裁縫が得意な産婦人科の毛利紘子医師の手づくりで、母親学級・両親学級で大活躍中

新たな支援の形 インスタグラムを利用した

の業務は多忙を極め、スタッフたちは心身ともに疲弊。助産師としてのモチベーションを保つのも厳しい状況でした。そのような不安な状況でも助産師としてもっと何か支援をできないか——。改めて検討したどり着いたのが、インスタグラムでの「母親学級」配信でした。

配信では看護において期待される結果とその評価のための指標である「看護成果分類」から妊娠中に知っておいてほしい内容を抽出して作成した「母親学級プログラム」を、筆者と大泉亜希副師長・佐藤泰子リーダーの3人で再構成。インスタグラム配信と対面指導の内容に振り





済生会 交差点

SAISEIKAI・JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。



インスタグラムの配信内容について話し合う筆者と小澤夏奈副院長



インスタグラム動画撮影の一コマ。産婦人科の東野昌彦医師のオリジナルキャラクター「ポン太郎」は、病棟のみなさんにも好評

分けました。
インスタグラムでは、妊娠中に知っておいてほしい内容を配信していくことに決め、母親学

級を担当している入職3年目以降のスタッフ約20人で分担して記事を作成。この活動はスタッフ自身にとっても、妊産婦さんに何を伝えていきたいかを再考するよい機会になりました。また、インスタグラム配信と対面指導（対面指導ができない場合の外來視聴用DVDも同時作



成）を組み合わせて実施できる方法を模索し、対面指導の回数を従来の月10回から6回に減らすことでスタッフの業務量の削減も目指しました。記事の作成やデザインは、栄養課、医療福祉事業課、広報担当者と連携して、ホームページへの掲載やQRコード付きポスターを院内に掲示して妊産婦さんやご家族たちへアナウンス。2022年12月にインスタグラム母親学級の配信がスタートしました。

スタッフ一丸となって妊産婦さんを支えます！

インスタグラム母親学級の取



室谷綾子助産師が、母乳育児、出産後の過ごし方について対面指導を行なう母親学級の様子。母親学級は、初産の人、出産経験のある人、里帰り出産の人など、当院にかかった妊産婦さんは誰でも参加できる

り組みは始まったばかりですが、配信を見た人からは「楽しい」「分かりやすい」という声が届いています。

業務中心→子どもの目標へ グループ分け変更で 「楽しく食べる」環境づくり



しかし食事環境は、さまざまな摂食機能レベルの子どもがいる中で、一人ひとりに合わせた支援が難しい状況にありました。

当院は重度から軽度の身体・精神・知的に障害のある子どもたち約90人が在籍する医療型障害児入所施設です。「子どもたちのできがふえて笑顔に」をビジョンに掲げ、保護・日常生活の指導・独立自活に必要な知識や技能の提供などを行なっています。

当院で分娩をした妊産婦さんたちへのアンケートからは「総合病院なのにアットホーム」との評価を多くいただいています。インスタグラムでは「産婦人科 医師・助産師・看護師だけ

嚥下に問題のある子どもが食材をあまり噛まずに飲み込んでしまい誤嚥を起こしそうになったり、介助方法に困ったときにスタッフ同士で相談しづらかったり、ハード・ソフト面の両面で課題が多くありました。



多職種にてナースステーションで支援ポイントについて話し合う。左から田邊美帆子さん(看護師)、松尾亜矢さん(保育士)、矢能理恵子さん(保育士)、筆者(理学療法士)

手洗い・食べ方・マナー・歯磨きの仕方 目標：マナーの習慣	
・友達と楽しく食べられるとよいと思います。 ・普通箸を使うことは難しいので、箸パンツを使っています。今後は柄付きの箸ぞうくへの変更を考えています。	
・姿勢が崩れやすいが、声かけにて戻ることができる。 ・使用中の椅子は、殿部を奥まで入れるよう声かけが必要。 ・箸は使えますが、スプーンの方が食べやすいようです。 ・よだれで口周りが汚れたときは、拭くよう声かけしてください。	
・右片麻痺があり身体全体が右側に傾きやすいので、姿勢の崩れに気づけるように「倒れてるよ」等の声かけをお願いします。	支援ポイント用紙



全介助の子どもの食事を支援する看護師の増田麻紀さんと、巡回する言語聴覚士の杉本瀬菜さん

個々の子どもに合わせた統一した支援を目指して
食事中は「早く食べなさい」「頑張らなさい」といった注意や指導の声かけが多く、子どもたちの声を聞く機会も減り、食

事本来の「楽しく食べる」という状況とはかけ離れたものでした。
こうした状況を踏まえて「子どもたちが楽しく安全に食べ、どの職員もそれぞれの子どもに合わせた統一した支援ができる

ではなく、当院ではさまざまな部署の人たちがみなさんを支えます！」というメッセージも発信していく予定です。
今後も試行錯誤を繰り返しながら、手軽にいつでも見ること

ができるSNSと、指導者や妊産婦さん同士が直接コミュニケーションを取れる対面指導の両方のメリットを生かして、当院独自の母親学級を開催していきたいと思えます。全国的に出生

数が減少し、産婦人科は厳しい状況にありますが、これからのスタッフ一丸となって妊産婦さんたちを支援していけるように頑張ります。



「楽しく安全に食べる・介助方法の統一」が目標のグループ。多職種が介入し、子ども一人ひとりのペースに合わせた介助を行なう

「こと」を目的に、病棟とリハビリテーション部が協働して取り組むことにしました。

看護師2人、保育士2人、理学療法士1人、作業療法士1人が中心になり、食事のグループ分けの基準を「職員の業務の流れ」から「子どもの食事目標」に変更。六つのグループごとに食事場所を設定しました。また、リハビリテーション部の担当セラピスト（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）19人に、それぞれの子ども「支援ポイント」を聞き取り、グループごとに「支援ポイント用紙」を作成。各グループの食事場所の壁に貼り、病棟職員がいつでも閲覧できるようにしました。

食事をすると子どもたちの笑顔を見るのがうれしい

リハビリテーション部の職員は、ファイルされた支援ポイント用紙をもとに各グループを巡回。食事時の子どもの姿勢、食具や手の使い方、食べ方などを見ながら病棟職員と情報共有を行ないました。さらに、それぞれの子どもに合わせた椅子や机が機能的に使用されているかを確認。例えば、椅子と机の位置が離れすぎの場合、姿勢が崩れて上肢機能や嚥下に影響が出やすくなるため、改善を図ります。

グループごとに食事場所を設定したことで、個々の特性に合わせた対応が行ないやすくなり、子どものペースで楽しく食べてもらうことができるようになりました。リハビリテーション部の専門性を生かして作成した支援ポイント用紙の活用が鍵となり、職員間で情報が共有され、支援の内容の統一を図ることができました。病棟職員からは「介助が難しい子



おしりの位置が前にずれている子どもの姿勢を改善し、上肢機能・口腔機能が最大限に発揮できるよう促す



「それぞれの目的が達成できる」が目標のグループは、食べこぼしや姿勢、道具の改善に取り組む

買い物に不便を感じている 地域住民を救いたい！

笑顔を乗せて 「買い物バス」が走る

病院車両を 活用した 買い物支援

神奈川県病院
医療福祉相談室
鎌村誠司



山坂の多い地域に位置する当院は、2021年10月から、町内会や社会福祉協議会などと連携して買い物支援のための無料シャトルバスを運行しています。きっかけは20年10月頃に地域包括支援センターからの「山坂の多い地域で買い物に不便を感じる人を何とかしたい」という声です。筆者も「透析患者の送迎車両を送迎時間外に有効活用できないだろうか」と考えていたところでした。

どもの対応時に役立った」「リハビリテーション部の職員と、食具・食形態の工夫や、姿勢・介助方法についてその場で話し合うことができた」などの意見を得ることができました。

その後、バス路線廃止などもあり増加している「買い物難民」を救うことを目的に、斎南町内会・社会福祉協議会・地域包括支援センターが協働し、萩谷秀人町内会長を代表者に「買い物支援ネットワーク」が21年3月に立ち上がりました。ここに当院も参加し、民生委員やボランティアの大学生、社会福祉協議会職員などと一緒に病院車両を活用した「買い物バス」の運行

誤嚥しそうになった子どもは、取り組み前の4カ月間では5件（5人）でしたが、取り組み後の4カ月間では2件（1人）にまで減少。誤嚥予防の効果を実感しています。

に取
りま
し
た。
運
行
に
先
駆
け
て
「
買
い
物
支
援
ネ
ッ
ト
ワ
ー
ク
」
メ
ン
バ



楽しく和やかな雰囲気です。をする中で、「見て、お箸でつまめたよ」「おいしい」といった明るい声が笑顔とともにあちらこちらから聞こえてくると、とてもうれしい気持ちになります。



今後は定期的に支援ポイントを修正しながら、職員間での情報共有を引き続き行ない、子どもたち一人ひとりに合わせたよりよい食事環境づくりを目指していきます。

が町内を歩いて運行ルートを検討し、大学の学生寮や美容室スパーマーケットなど5カ所にバス停留所を設置。当院の隣に位置する大型スーパーまでを2往復するスケジュールを組み

ました。
利用者
の要望も取り入れ
買い物をもっと楽しく便利に
21年10月から試験運行を開始。
年度内に4回の運行を22年度か



齋藤分町の南部地域とスーパーやホームセンターをつなぐ「齋南シャトル」。最近は満席になることが多い



「お花がきれいね」と買い物中も利用者同士の会話が弾む

「移動サロン」として
地域交流の場づくりにも
買い物時間は1時間半ほどで、
バスの利用定員はドライバーと
添乗員を除く8人です。多くの
地域住民が利用され、毎回ほぼ
満席です。最近は利用者さんか
らの「もう少し遠くのスーパー
へ行きたい」との声をきっかけ
にアンケート調査を実施。みな
とみらい地区にある大型スーパ

「移動サロン」として
地域交流の場づくりにも



らは頻度を上げて月に1回運行
しています。
「買い物バス」の町内会への周
知には、回覧板や掲示板を活用
しました。乗車予約の受付は民
生委員、バスの添乗員はボラン
ティアの大学生が担います。バ
ス運行に関わる費用などは、済
生会ソーシャルインクルージョ
ン推進計画の補助制度を利用し
ています。

ーへ行き先を変更した
ところ、大変喜んでい
ただきました。
「なかなか買い物に出
かけられない高齢者の
ために」という思いで
スタートした買い物支
援。一方で、いつの間
にか妊婦さんや小さい
お子さんを抱えた方の
利用も増え、車内は楽
しそうに会話する利用
者さんたちの笑顔であ
ふれています。
さまざまな住民が利
用する「買い物バス」
は、地域の足として
だけではなく、買い物
を通じた利用者同士の
自然な語り合いとともに、
世代間の交流の場とし
ても機能していること
に大きな価値があると
感じています。
コロナ禍で外出や人
との交流の機会が減っ
てしまった今だからこ
そ、当院の取り組みを
地域の人々との交流や
笑顔を取り戻す一助に
したいと思います。

「買い物バス」の町内会への周知には、回覧板や掲示板を活用しました。乗車予約の受付は民生委員、バスの添乗員はボランティアの大学生が担います。バス運行に関わる費用などは、済生会ソーシャルインクルージョン推進計画の補助制度を利用しています。



買い物支援ネットワークは2カ月に1回、行き先についての話し合いや利用者さんの声を共有する打ち合わせを実施



買い物支援ネットワークのメンバーで運行スケジュールについて打ち合わせ

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。
 無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
 だれも排除されないまちづくりを目指し、
 全支部・施設が1696事業を展開します。

ソーシャルインクルージョン

福祉事業所の手作りお菓子を 病院の手土産として活用

〈三重〉松阪総合病院



三重県済生会はソーシャルインクルージョン推進の活動の第一弾として、福祉事業所の支援を行なっています。

就労継続支援B型事業所「お菓子工房M」は松阪市にあり、まつさか福祉会が運営しています。2月から、利用者さんの「おいしくなあれ」の思いのこもった手作りお菓子の詰め合わせパックを済生会で購入し、当院独自のシールを貼って、病院の手土産として活用。

例えば、
 新入職員オリエンテーション時や、三重県済生会主催のソフボール大会の参加賞として配布するなど、さまざまな場面で利用されています。
 筆者もこちらのクツ

キーをいただいで、非常においしかったです。みなさんもぜひご賞味ください！
 今後も活動の輪をどんどん広げていき、第二弾、第三弾と展開していきます。
 (済生記者 田端雄輔)

松阪市社会福祉協議会へ 職員から集めた食料品を届ける



松阪総合病院は3月6～20日の約2週間にわたり、第2回フードドライブを実施。家庭では使い切れない食料品の寄付を職員に呼びかけて集まったカップラーメン・缶詰など合計222点を、4月14日に松阪市社会福祉協議会へ届けました。これらの食料品は、緊急食料支援や社会福祉協議会主催のフードドライブなどで活用されます。

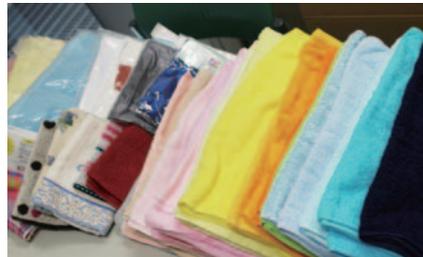


独自のセーフティネット事業で 必要な支援を地域へ



〈大阪〉吹田病院

当院では2021年から、なでしこプランの一環で独自の地域セーフティネット事業を実施。未使用のタオルや食品などを職員に募り、社会福祉協議会等を通じて必要な人に提供する活動を行っています。



最近、スーパーやコンビニなどでも「フードドライブ」という言葉を目にするのが多くなりました。日本の食品ロス量は年間522万トン（令和2年度）で、そのうちの約半分が家

今年も2月から3月にかけて、吹田医療福祉センターで食品・生活用品の募集を行なったところ、インスタント食品、飲料、菓子、未使用の衣類・タオル、シャンプー、石鹸・洗剤、生理用品やオムツなど、多くの寄付が集まりました。

これらは匿名の寄付ですが、中には物品を購入した上で寄付してくださる人もいます。その思いに感謝し、地域で必要とされる人に届くように、取り組みを継続していきたいです。

（福祉医療支援課

MSW 中村悠子）



〈栃木〉宇都宮病院

ラジオで女性支援事業をPR 「ひとりじゃないよ」と伝えたい

稲見一美地域連携課長（MSW）が4月22日、宇都宮コミュニティFMミヤラジに出演し、宇都宮市つながりサポート女性支援事業のPRを行ないました。

今回は事業内容やビジョン、生理の貧困に関する事例紹介、取り組みなどについて説明。また、つなサポの協力団体やNPO等の団体も紹介し、身近に相談窓口がたくさんあることを周知しました。

庭から出されています。食品ロスを減らすためにもフードドライブを活用して「もったいない」から「ありがとう」へとつなぐ取り組みを続けていきます。

（済生記者 田端雄輔）

「困って悩んでいる人たちに、『ひとりじゃないよ』と伝えたい。一人で耐えて我慢しようではなく、まずは相談して、話をしてみてください。つなサポ相談室があなたと一緒に考え、解決に向けたつながりをサポートします」と稲見課長。

オンエア中にも多数の質問が寄せられました。これをきっかけに、済生会のPRにもつなげたいと思います。

（地域連携課 秋山綾香）

学生服などの学用品を

必要とする人にバトンタッチ



〈栃木〉宇都宮病院

宇都宮病院は4月、宇都宮学生服リユースショップが行なう「ツナグ回収BOXプロジェクト」に賛同し、学生服・体操服・カバンなどの学校指定用品の回収ボックスを院内に設置しました。

同プロジェクトは、不要になった学生服などを回収し必要とする人に安価で譲渡するとともに、その査定額を「子どもの未来応援基金」(内閣府)に寄付し、子どもの貧困対策などに役立つもの。同社は「なんとか家計を抑えたい子育て世代のために、愛着のある学生服をバトンタッ

食品や生理用品の無料配布と相談会



4月22日、フードバンクうつのみやなどと共に、今年度初めての食品配布(兼)相談会を市内のフードバンクうつのみやが丘支所で開催しました。外国人も合わせて88人

が訪れ、食料品のほか、宇都宮市つながりサポート女性支援事業の一環で生理用品も無料で配布しました。

当日は当院のソーシャルワーカーのほか、栃木県精神保健福祉士会会員のソーシャルワーカーが相談員として参加。日雇いで就労している20代女性はコロナ禍で仕事が激減し、家賃やライフラインを滞納するように。残金は6000円とかなり厳しい状況に陥っていました。「無保険のため婦人科を受診できていない」と相談を受け、市の重層的支援体制整備事業の各担当者と連携し、生活の立て直しや、必要な医療が受けられるよう支

援することになりました。さまざまな相談対応を通して、アウトリーチを行なう重要性を再認識しました。

(地域連携課 秋山綾香)



チする幸せのサイクルをお手伝いすることを目的に活動しており、当院が運営を受託する宇都宮市つながりサポート女性支援事業の協力団体でもあります。

5月2日、約1カ月間で集まった市内の保育園・幼稚園・小中高校の学生服や体操服、指定カバンなどのたくさんさんの品を同店へお渡ししました。

稲見一美地域連携課長(MSW)は「SDGsの観点からもすばらしい活動。今後もこのような地域貢献活動に協力していきたい」と話しています。

(地域連携課 秋山綾香)

あなたの写真が カレンダーに!?



【大好評のため、今年も実施します!!】
11月号までに掲載された記事の中で、良い表情をとらえた写真が対象

機関誌「済生」に載った写真の中から編集部が厳選、カレンダーにしてプレゼント! カレンダーのサイズは、済生会の「な
でしこの花カレンダー」と同様です。当選者は本誌にて発表します。応募の詳細は **【撮影】** 大きく引き延ばすので
正確なピントと適切な露出に **【構図】** 横。画面に撮影の日付が入っているものは審査対象外 **【写真の規格】**
写真はデジタルデータに限り、サイズは1MB以上 **【送付方法】** いつも通り、原稿と写真をセットに
して本部広報室・下記メールアドレス宛に送ってください。写真のデータ量が大きい
場合は大容量ファイルで送ってください **【参加資格】** 本会支部・施設の職員

koho@saiseikai.or.jp

今年も やります!!

ある日突然、
5人の身体からだが入れ替わり、
自分以外の秘密や悩み、
コンプレックスが浮き彫りになる映画
『GONZA』に出演した坂巻有紗さん。
体当たりで一人二役を演じた
撮影時の様子を語ってくれました。
この作品で女優の面白さに開眼。
今後、思い描いている夢とは？

坂巻 有紗

*Alisa
Sakamaki*



Vol. 157



史上初、5人が入れ替わっちゃった!? 相手目線で社会を見るきっかけに

Text: みやじまなおみ

Photos: 安友康博



さかまき・ありさ 2000年生まれ、埼玉県出身。高校生で出演した人気リアリティ番組で話題となり、「TGC teen」「ファッションリーダーズ」などにモデルとして出演。その後、2020年、短編映画『魔女』『CAT』で主演を務め、22年、『夜を走る』で長編映画デビュー。23年は3本の映画『スパイスより愛を込めて。』『GONZA』『ランサム』が公開、女優としての活動を本格的にスタートさせた。

坂巻有紗さんがヒロインを務める本作は、ただ身体が入れ替わるだけの映画ではない。出演時を振り返り、「車いすユーザーやLGBTQを含めた多様な性に向き合い、当事者目線で社会を見ることの大切さを深く感じながら演じました」と語る。

また、主人公の拓海と魂が入れ替わり、二人の人間を同時に演じることも大きなチャレンジだったそう。「お箸^{はし}の上げ下ろしから歩き方、何から何まで拓海役の上村さんを観察して、対話もたくさんしました。難しかったですが、女優としてとても勉強になりました!」

自分ではない誰かになるのが女優の仕事だが、「今は役を通してさまざまな人生や考え方に触れ、人として成長できることが大きな喜び」と坂巻さん。ただ、監督にNGを出されて落ち込むことも。「小さなことでも、言われると全部受け止めてしまう。その日は泣いて(笑)。でも、自分の部屋に戻り、大好きな音楽を大音量で流してストレス発散したあとは、監督に言われたことを明日に生かそうと気持ちを入れ替えます」

将来は、音楽フィールドにも軸足を持ち、海外進出したという夢を持つ。「祖父がアイルランド系アメリカ人で、何度か祖父の祖国のアメリカに足を運ぶうちに、国を飛び越えて人を元気にしたいと思うようになりました。天国にいる祖父に『アメリカでも活躍しているよ!』と報告できるようなところからがんばります」



映画『GONZA』

新入社員が研修センターで巻き起こすハプニング。普通を絵に描いたような拓海、才色兼備のナディア、車いすユーザーの英美里、LGBTQ(性的マイノリティ)の王、スラム出身のイバン、多種多様な新人5人の身体があることをきっかけにシャッフル! いっぺんに入れ替わってしまう。研修最終日までに、彼らは元に戻ることができるのか……?

■原案: 佐藤マコト ■脚本・監督: 千村光

■出演: 上村侑、坂巻有紗、久住小春、篠田諒、鈴原ゆりあ ほか

6月30日(金)より池袋シネマ・ロサほか全国順次公開

©2023「GONZA」製作委員会



口福につぼん

吉井省一

旅先で「どちらからですか」と聞かれて「千葉県です」と答えた時、かなり高確率で「落花生」を思い浮かべられることが多いように感じます。

そういえば「落花生」と「ピーナッツ」は同じものなのに、殻付きは「落花生」、殻をむけば「ピーナッツ」というイメージがあるのはどうしてでしょう。皆さんは落花生の花をご覧になったことがありますか。黄色い蝶が羽を広げて飛んでいるような小さくて可愛い花で、ちょうど夏休みの頃に咲くので、祖母の家に遊びに行く時によく見かけたのを覚えています。この花がしぼむと、花の茎の元から子房柄なるものが伸びて土に刺



千葉の秋の風物詩“ぼっち”。夕陽の中、落花生が昔ながらの手作業で野積みされている姿に、不思議な郷愁を感じる

さり、その先がふくらんで莢ができて実がなるのです。今回は、我ら千葉県民の自慢である落花生を使った、とっておきの美味をご紹介します。

千葉の落花生は旨い、を実現する一品

70年以上の歴史がある落花生問屋セガワの3代目加瀬宏行さんが2015年に立ち上げたのが、「Bocchi」という名のピーナッツブランド。このネーミングは、収穫した落花生を乾燥させるため、

畑にこんもりと積み上げられた「らっかぼっ

69 ピーナッツペースト

ち」から来ています。この「らっかぼっち」を見ると、千葉県民は「ああ、そろそろ新豆が食べられる季節だなあ」と思うのです。

落花生の加工食品を作るきっかけとなったのは、千葉県の落花生生産者の減少だったとのこと。その危機感を少しでも打開していくため、ベーカー向けにパンと相性がいい本場に美味しいピーナッツペーストをつくらうと思いつくと、加瀬さんは話してくれました。このピーナッツペーストの正式な商品名には「畑で採れた」



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

が付いています。その名の通り、材料の落花生が育つのは、九十九里浜の潮風と豊かな陽光に恵まれた気候と砂まじりの土壌。

使われている品種は、甘みが強く濃厚な味わいの「千葉半立」とあっさりした甘さが人気の「ナカテユタカ」。千葉県内の契約農家が丹精込めて育てた落花生だけを原料にしています。また、使っている塩も、九十九里浜の海水から「揚げ浜式製塩法」でつくったもの。味や香りの決め手となる焙煎も、熟練の職人たちが細かく管理しながら丁寧に仕上げられています。



自社圃場の中には、耕作放棄地を購入・開拓し直し、九十九里浜に適した種子の生育・保存に力を入れている畑も

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

パンに塗るだけでなく
冷やし中華やサラダにも

このピーナッツペーストには「砂糖不使用」「加糖・つぶ無し」「加糖・つぶ入り」の3種類があります。中でも私が特にハマったのが、これぞ落花生というカリッとした歯応えを楽しめる「加糖・つぶ入り」。

もちろん、「砂糖不使用」にも、落花生本来の甘さがあるので、



Bocchiのピーナッツ素材は料理のプロから愛され、全国30軒以上のレストラン、ベーカリーで楽しむことが。家庭でも、和食・中華・フレンチと様々なメニューに活用できる



アイスにのせたり、白味噌と和えて野菜のおひたしにしても美味。甘くてなめらかな口当たりが好きな方には「加糖・つぶ無し」をおすすめします。

それでは「加糖・つぶ入り」を生の食パンでいただいたてみましよう。ここはちよつと贅沢して、パン専門店の焼きたてパンといきたいところ。

スライスしたパンに、まんべんなく塗り込んでからひと口。トロリとした口溶けの中に、粗挽き落花生ならではのコクのあ



絶妙な“粒々感”をもたせるため、細心の注意が払われている。煎り具合は焙煎・品質管理・ペースト加工、3名の担当者でチェック

る濃厚な味わいと豊かな香りが広がります。旨い。トーストにすれば、落花生の香りが増して、食感もやわらかくなります。

さらに、生クリームやメープルシロップ、いちごジャムをのせると、味のバラエティを楽しめて、おやつタイムにぴったり。加瀬さんのお薦めはプレスリーの好物として知られる「エルビスサンド」。焼いたバナナとペーコンを挟んだサンドイッチです。ワイルドな見た目でも、甘

さと塩っぱさが絶妙なバランス。冷やし中華や春雨サラダにも

活用できるレシピがホームページにありますのでぜひお試しを。ピーナッツペーストとともに

楽しんだ午後のティータイム。落花生王国千葉に生まれた幸せをしみじみ噛み締めたひとときでした。



畑で採れたピーナッツペースト [加糖・つぶ入り] 100g

※他に2種(砂糖不使用、加糖・つぶ無し)あり

1,296円(税込・送料別) 賞味期限……常温6カ月

お取り寄せ・お問い合わせは

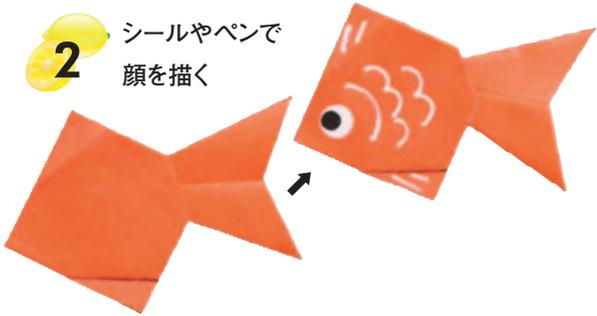
株式会社セガワ (Bocchi) 〒289-2524 千葉県旭市神宮寺 8323-6

TEL : 0479-67-3566

営業時間: 9:00 ~ 16:00 (土日祝日除く)

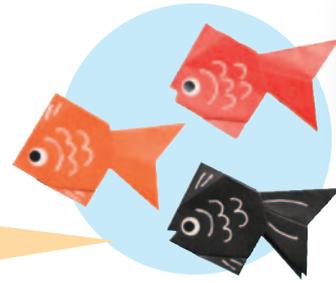
ホームページ: <https://bocchi-peanut.shop-pro.jp/>

だれでもかんたん
てづくり
おもちゃ



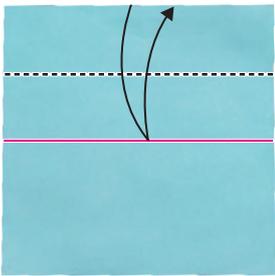
2 シールやペンで
顔を描く

赤や黒の金魚のように
口先をハサミで切り取る
アレンジもしてみてくださいね

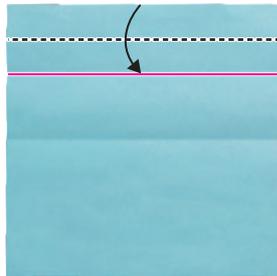


金魚鉢A

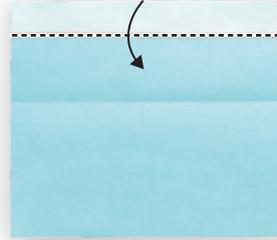
1 上の辺を折り返して
折り目を付ける



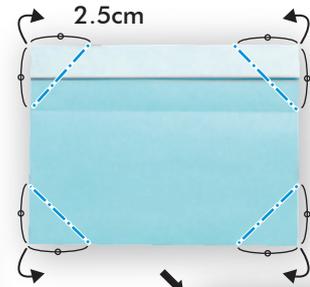
2 上の辺を折る



3 さらに上の辺を折る

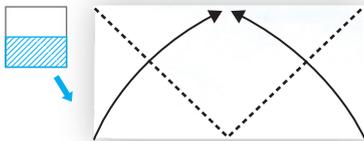


4 四角を
山折り

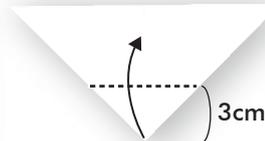


金魚鉢B

1 1/2サイズの折り紙を
辺に合わせて折る



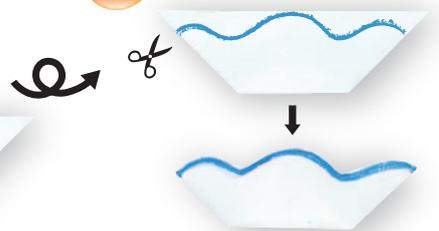
2 下の角を折る



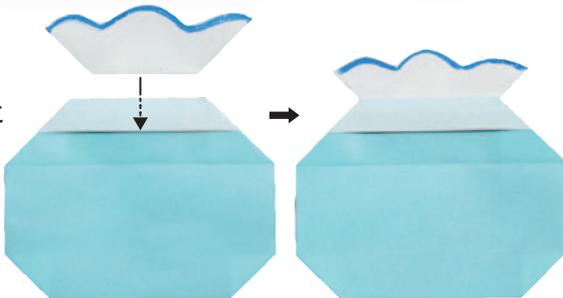
3 裏返す



4 線を描いて切り取る

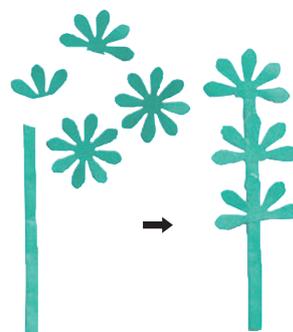


5 鉢Aの裏に
鉢Bをのり
付けする



水草

細く切った折り紙や
パンチで水草を作る



完成

金魚鉢に金魚と水草
などを貼り付けて完成



新刊本の
プレゼントがあります!



詳しくは45ページを
見てね♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えていきます。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など38冊。2011年から、小学校2年の教科書「こくご」(三省堂版)にも登場。



動画もcheck!

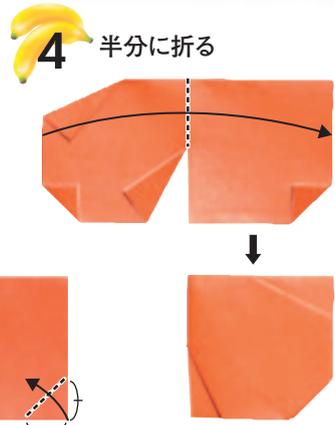
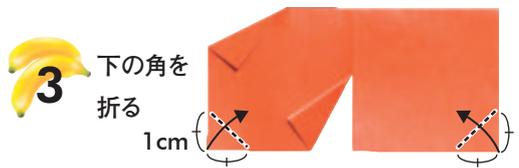
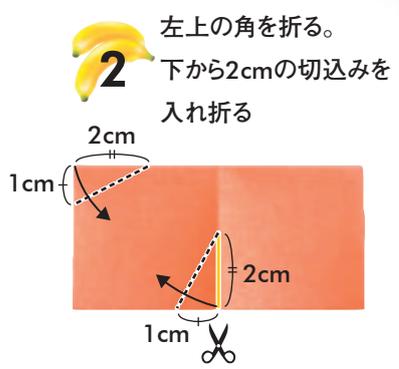
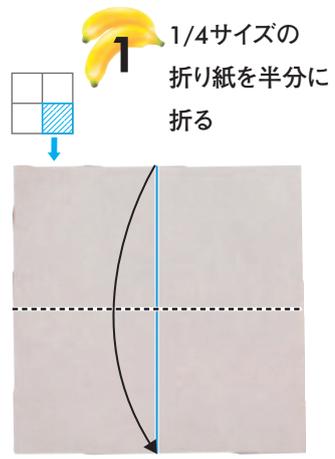
作品・折り図:いまいみさ おりがみ協力:株式会社トーヨー

夏はもうすぐ!

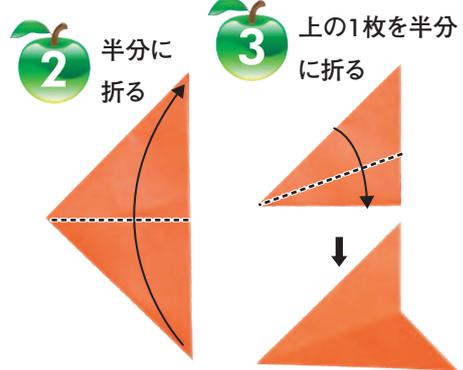
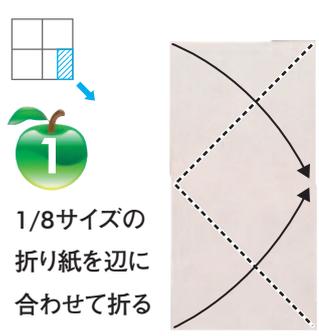
涼しげ金魚とレトロ鉢



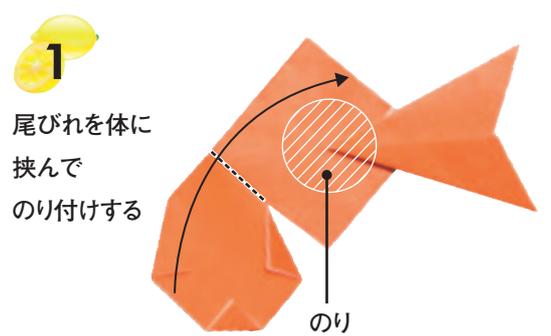
金魚・体



金魚・尾びれ1



金魚





2015年から運行を開始した「京滋ドクターヘリ」。福井県の嶺南地域、京都府南部および滋賀県全域の救急初期診療に対応している。YouTubeで「済生会滋賀 ドクターヘリ」と検索してください。当該病院職員が撮影・編集した動画を見ることができます。

topics

救命救急センターが今年もS評価獲得

滋賀県病院

当院救命救急センターは、厚生労働省が実施した「令和4年救命救急センターの充実段階評価」で、前年に引き続き最上位のS評価を受けました。

令和4年は

全国300の救命救急センターが対象となっており、そのうちS評価を受けたのは86カ所。滋賀県では当院のみです。

当センターは滋賀県湖南地域における救急医療の最後の砦として、「救急車は断らない」をモットーとした体制を整備。さらに、ドクターカーとドクターヘリを有し、プレホスピタル（病院前救護）に力を入れた救急診療を実践しています。

越後整・救命救急センター長は「前年に引き続きS評価をいただけたことを非常にうれしく思います。センター設立から受け継がれる「救急車は断らない」をモットーに、前年度は7000台以上の救急車を受

け入れました」と語りました。

（済生記者 西澤真由美）

★診療体制に対する評価だけでなく、救急医療に取り組む職員の姿勢もS評価だと思えます。

（本部広報室 河内淳史）

〈山形〉特養やまのべ荘 社会体験学習に中学生2人

5月16日から3日間、町内の山辺中学校の生徒2人を社会体験学習で受け入れました。当施設では社会人としてのマナーの習得や働くことの楽しさ、他者との関わり方の大切さを学んでもらうことを目的に、平成15年から受け入れを行なっています。

生徒2人ははじめ緊張した面持ちでしたが、利用者さんとの関わりを通じて、次第に笑みが見られるようになりました。利用者さんも「孫、ひ孫みたいだ」ととても優しい表情で接してくれました。

体験学習を終え、生徒からは「相手と話すことの大切さを学んだ」「利用者さんとの活動が楽しかった」との感想がありました。短い時間でしたが我々職員にとっても、人との関わりを通して成長する姿を見ることが

できて非常にうれしく思いました。

また来年も体験に来てくれることを楽しみにしています。

(済生記者 大滝美結)



熊本県地域生活定着支援センター

BBQで初めての親睦会

当センター初となる親睦会を5月16日、対象者さんを12人招待しボランティアとしてお世話になっている刑務所の職員さん

にも参加していただき、開催しました。

普段はご自宅にうかがうことが多い対象者さんと、青空の下で一緒にバーベキューを楽しむことはもちろん初めての試み。職員もドキドキしながらの開催でしたが、対象者さんの今まで見たことのない一面も知ることができて、とてもうれしかったです。

参加したみなさんからも「いつもは家にいるばかりだから、外に出る機会を作ってもらえてうれしい」「またやってほしい」



という言葉を開けました。

独居の人が多いので、今回の親睦会が孤独感の解消につながったと感じています。今後も生活を豊かにするような支援をしてまいります。

(相談員 西田悠香)

〈新潟〉特養長和園

3年ぶりの外出を満喫

長和園が運営している三条市西四日町デイサービスセンターでは、5月10日から1週間、3年ぶりの外出レクリエーションを実施しました。

目的地は「保内公園」です。この公園は県内有数の植木産地の保内地区にあり、四季折々の自然を楽しむことができます。職員が「今



日はひさしぶりに車で外出しましょう」と声をかけると、みなさん大喜び。車で約20分の公園まで「ひさしぶりでわくわくするね」「景色がきれいだね」「どんな花が咲いているかね」とドライブを満喫しました。

公園に着くとちようどツツジが満開で、とびっきりの笑顔で写真撮影ができました。

(済生記者 西川まゆみ)

日本医学会総会で間宮副看護部長が発表

〈大阪〉吹田病院

第31回日本医学会総会が4月21～23日に東京国際フォーラムなどで開催され、ハイブリッド方式で約4万人が参加しました。日本看護協会との合同企画セッション「特定行為研修を組み

として、組織横断的に活動してきた間宮専門副看護部長。その活動は病院内にとどまらず、地域医療との連携、地域包括ケアの推進など院外にも広がります。また管理的側面から、後方施設や在宅でのケアも視野に入れ、技術の普及に力を注いでいます。学会前に、「これまでに特定行為研修制度推進のために取り組んできたこと、『患者のために』何ができるのかを伝えられたら」と凛とした目で語ってくれたことが印象的でした。

(済生記者 橋本 茜)

〈神奈川〉横浜市六浦地域 ケアプラザ

職員向け発表会を見学

3月29日、若草病院の職員向け成果発表会『Wakakusa Reward 2022』を見学しました。同イベントは昨年に続き2回目の開催で、年に1回、若草病院全体の成果確認のために行なわれるもの。当日は経営企画室の吉田勉室長と高木裕子さんに温かく出迎えてもらいました。



見学を終え、院内各科での診療内容や取り組みなど、科独自のスタイルで分かりやすく展示されていることが印象に残りました。また、山本俊郎院長代行(当時)のスマイル写真がたくさんあるのにも驚きました。

この展示を通して病院内の横のつながりが強くなり、よりよい職場環境になることを願っています。来年は当ケアプラザのボランティア部が花飾りの作成で協力できればうれしいです。

(済生記者 山田和恵)

常勤眼科医が就任

〈宮崎〉日向病院

4月から眼科に堀之内みどり医師を常勤として迎えました。これにより、宮崎大学病院からの派遣で週3回だった眼科診療を毎日に行なえるようになります。



5月からは白内障や緑内障の手術も行ないます。手術機器や蛍光眼底造影検査ができる検査器械なども新しくそろえ、糖尿病網膜症や加齢黄斑変性性など、宮崎市まで足を運ばなくても検査ができるよう整備しました。



込んだ認定看護師の実践〜成果から見る未来の展望〜」で、病院の間宮直子専門副看護部長が発表しました。

皮膚・排泄ケア認定看護師として、また制度化前の試行事業の頃からの特定行為研修修了者



「花まちさんぽ」プロジェクトに参画

東神奈川リハビリテーション病院

神奈川区内3エリア（菅田、六角橋、東神奈川）で企画した「花まちさんぽ」プロジェクト

堀之内医師は「手術日には宮崎大学病院からの医師派遣も継続されます。大学病院に通院中の患者さんの併診先として、治療の負担を減らしたい。これから大学病院、近隣地域の眼科医療を支えている先生方と協力し、宮崎県北部の眼科医療に貢献する」と話しました。

地域に根付いた医療提供に新しい風が吹き始めました。
（済生記者 村尾 愛）

クトに、神奈川県病院とともに参画しました。

このプロジェクトは4月16日、23日の1週間を「フラワーウィーク」として、エリア内のフラワースポット施設を参加者がマップを片手に自由に巡って鑑賞するというもの。

4月19日、日比野政芳・神奈川区长とプロジェクト関係者3人が視察のために来院。フラワースポットの花壇整備を担当した当院の園芸チームとボランティアが活動経緯や状況を説明し、日比野区长から感謝の言葉をいただきました。今後院内で園芸活動をすることで励みになりました。（医事課長 濱崎啓師）

救急認定ソーシャルワーカー誕生

〈埼玉〉加須病院

当院MSWの松島麻奈さんが4月1日、「救急認定ソーシャルワーカー」の認定を受けました。埼玉県内で10人目となります。

MSWは医療が必要となった患者家族の環境や生活状況などを把握し、必要に応じて支援します。それに加えて救急認定

ソーシャルワーカーには、救急医療特有の事故や傷害などへの専門的な対応も求められます。利根保健医療圏で唯一の救命救急センターである当院としても、救急認定ソーシャルワーカーの取得は大変喜ばしいことです。

松島さんからは「我々には限



られた時間の中で、治療と並行して迅速に療養環境を整備するための支援が求められます。複雑な生活課題を抱えている患者さんが多い中、少しでも地域の救急医療に貢献できるように今後も努力してまいります」との意欲的なコメントをもらいました。
（済生記者 蓬田絵里子）



福井県済生会病院

院内に啓発ポスターを掲示

5月12日の看護の日に合わせて、当院では5月9日から12日まで、看護に関する啓発ポスターを正面受付ホールに掲示しました。

その内容は家庭内での感染対策方法、手指消毒のチェック方法、感染対策の基礎知識、提供・

移植可能な臓器の情報など。

また、子ども向けに済生会ホームページで紹介している「いまいみさの魔法のおりがみ」を見て、手洗いやアマビエを作ってコロナ退散を願いました。

通院する患者さんの中には、ポスターを見ながら「コロナは5類になったが

まだまだ油断はできない。家には基礎疾患を持った家族もいるので、自分でできることをしていきたい」と話す人もいました。(済生記者 田中一弥)

〈三重〉 松阪総合病院

「女性が働きやすい医療機関」に再認証

令和4年度「女性が働きやす

い医療機関」の認証式が3月13日に三重県庁で行なわれ、一見勝之知事から当院の清水敦哉病院長に認証書が授与されました。この認証制度は女性が働きやすい勤務環境づくり、ひいては男性職員にとっても働きやすい職場環境を実現するため、平成27年度に全国に先駆けて三重県が創設。当院は平成31年度の初認証以来、2度目です。

今後も認証取得への取り組みを通して組織の活性化と医療スタッフの意識改革を図り、常に選ばれる施設を目指します。(済生記者 田端雄輔)

電動車椅子サッカー大会をサポート

東神奈川リハビリテーション病院

一般社団法人F・マリノススポーツクラブなどの主催で「第18回電動車椅子サッカー大会」が、4月8〜9日に神奈川県立スポーツセンターで行なわれました。同クラブの望月選理

事以前講演していただいたつなぎりもあり、当院からは医師・看護師・セラピストなど計15人がサポーターとして参加。審判救護班、大会受付、駐車場誘導、観戦席案内などを担当しました。

当日は電動車椅子のスピードテスト、協賛企業サポーターが修理する電動車椅子専用ピットなど、初めて目にする光景が多く、大会運営も含め貴重な経験となりました。

ボールを器用に操る障害者の選手たちにも感動し、スポーツ自体の魅力も体験できました。今後、SDGsを推進する企業（一般社団法人F・マリノススポーツクラブ）と、さ





©F.M.S.C

さまざまな場面で連携を深めてまいります。

(医事課長 濱崎啓師)

先輩職員の講話が好評

(埼玉) 川口総合病院

昨年スタートした新入職事務

職員対象の初任者研修が、今年も4月から始まりました。

参加者は12人で、月1回全6回の予定で開催されます。

企画・進行を担当した人事・総務課の本橋和宏さんは「受講者間の『横のつながり』を醸成し、事務職員の一体感・連帯感を向上させたい」と意気込みを話しました。

初回をのぞき見すると、新入職員たちはやや緊張した面持ちながらも、積極的に研修に取り組んでいました。

昨年好評だった先輩事務職員の講話は、今年も全ての回で予定されています。初回の講師は病院長秘書の宮下佳子さん。子育てをしながら働くワーキングマザーとしてキャリアを積み、日々精力的に仕事をしてい

ます。

今後、仕事と子育ての両立や働き方で迷うこともあるかと思えます。そんなときに、人生経験においても先輩である私たち職員に、気兼ねなく相談してもらえる関係になりたいと感じました。

(済生記者 原 衣里奈)





新緑祭おやつバイキング いただきます

〈愛媛〉小田特養緑風荘

この時期恒例の「新緑祭」を5月11日に開催し、入居者さん約30人が参加しました。新型コロナウイルスの5類に引き下げ以降初のイベントですが、ご家族の招待は今回も見合わせました。

会場はいつもの食堂。しかし、風船や紙テープで飾り付けられ、心なしかウキウキする空間に。みんなで顔を合わせて座り、テーブルセッティングやメニュー表などいつもと違う雰囲気、何が始まるのだろうかとドキドキ……。

今年の新緑祭のテーマは「お



やつバイキング」です。有名菓子店のケーキやプリン、どら焼きなど種類も豊富で、食べたいおやつと飲み物が選べます。みなさん迷いながら選び「いただきます！」と一口。笑みがこぼれます。「おいしいねえ」と食も進みます。

あつという間に平らげ、おかわりする人も。その笑顔に職員もにっこり。とてもすてきな時間となりました。

（済生記者 宮内由圭）

〈北海道〉小樽病院

QCサークル札幌大会で審査員特別賞

QCサークル北海道支部札幌大会が1月20日に開催され、当院代表のリハビリテーション室「モーニングリハビリ」（代表・相馬彰斗）が審査員特別賞（3位）を受賞しました。

発表内容は2024年の回復期リハビリ完全包括化の可能性を見据え、より効率的に「リハビリ実績指数」の向上に貢献すべく活動した結果についての

topics

報告でした。

医療福祉関係の参加チームはいつもは10チーム前後のところ、今年度は当院を含め2チームのみ。他は日常的にQC活動を行なっている製造業チームだけに健闘が光りました。

審査講評では高い成果の創出、無形効果、波及効果の評価、標準化と管理の定着の実践、今後の課題分析について高評価をいただきました。

(QC活動実行委員会

伝法俊和)



岡山済生会総合病院 ホームページの採用情報 を大幅リニューアル

「私の仕事が、チームを、社会



を、心を豊かにする"をミッションに掲げ、昨年10月

12日、リクルートサイトを大幅にリニューアルしました。

人事課と広報企画課が一丸となって取り組み、私たちが実践するチームワークや患者さんとの深いつながりを紹介したコンテンツになっています。

制作に際しては、病院のイメージを大切にしつつリアルな声

を届けるため、18人のスタッフをインタビュー形式で紹介しています。取材や写真撮影などの細部まで徹底的にこだわり、自信を持って提供できるクオリティに仕上がりました。

サイトを通じて、私たちの仕事やミッションに共感してくださる人々と出会い、一緒にこの使命を達成することを期待しています。

(済生記者 高畑貴子)

〈山形〉特養ながまち荘 ヒアリングフレイル サポーター養成講座に参加

5月11日、山形市主催の「ヒアリングフレイルサポーター養成講座」を受講しました。

聴覚障害者は聴こえないことに気付かないために、周囲とのコミュニケーションがうまくいかず孤立したり、QOLが低下したりがちです。ヒアリングフレイルサポーターとは、そうした「聴こえの課題」をきちんと理解し、難聴のリスクとその対策方法を伝えていく人のことです。

講座では、ヒアリングフレイルの概念や難聴と認知症の関連

性、難聴者目線でのコミュニケーションの在り方、さまざまなリスクとその対策方法などを学びました。

当荘では障害者生活支援体制



加算を算定しており、聴覚障害者の受け入れも積極的にを行っています。今回は先駆けて3人の職員が受講しましたが、今後は聴覚障害者の支援体制の強化を図るため、すべての職員が本講座を受講する予定です。

(介護職員 鈴木貴代美)

トルコでの地震救援を報告

滋賀県病院

トルコ・シリア大地震で JICA の国際緊急援助隊 (JDR) 医療チームの 2 次隊として被災地で活動した当院救急外来の若原聖徳看護係長 (DMAT 隊員) が、4 月 18 日に滋賀県庁を訪れ、三日月大造



知事に活動を報告しました。

当日は従事したサブライセンターでの医療機器管理について詳細を説明し、三日月知事から感謝とねぎらいの言葉をいただきました。

若原看護係長は「今回が初めての海外救援であり、非常にいい経験となった。当院では今年新しく 2 人が JDR に登録したこともあり、今後は人材の育成や派遣を行なえる院内の環境づくりにも注力したい」と語りました。

(済生記者 西澤真由美)

〈神奈川〉横浜市南部病院

新病院建設に向けた説明会に 200 人

横浜市は 4 月 21、22 日、当院の再整備に伴う建設予定地の都市計画変更手続きを進めるにあたって、説明会を横浜市病院協会看護専門学校校体育館で開催。合計約 200 人の地域住民が参加しました。

当院は今年度で築 40 年。老朽化に加えて電力量やスペース不足で診療機能の拡充も難しい状況です。そうした状況を受けて、令和 2 年 3 月に横浜市と協定を



締結し、市有地の無償貸与による当院再整備の共同事業がスタートしました。現在は移転敷地に含まれる傾斜地の安全対策工事を、横浜市が実施しています。説明会冒頭では、横浜市医療局の山本憲司地域医療課長から市の地域中核病院である当院を再整備することの重要性が説明され、当院からも新病院準備室の保田鮎太課長が事業者として説明しました。

その後、参加者からのあたたかい応援の声や、「病院への自動車の進入方法をなるべくスム

ーズにしてほしい」など周辺交通に関する意見が予定時刻を超えて活発に交わされました。再整備事業の着実な推進に対する注目と期待の高さを改めて強く感じる説明会となりました。

(済生記者 齊藤一篤)

川口看護専門学校の戴帽式が、

〈埼玉〉川口総合病院

音楽ホールで戴帽式

4 月 29 日、川口総合文化センターリリア音楽ホールで行なわれました。神聖な雰囲気の中、看護学生 35 人にナスキャップが戴帽されました。戴帽生代表として「誓いの言葉」を務めた森

奈津美さんは「死がすぐそばで迫っている祖父の靴を、起きたらすぐに履いて歩けるようにと担当の看護師さんがベッドの下にきちんとそろえて置いてくださいました。祖父は亡くなりましたが、家族に対する心づかいに胸がいっぱいになりました。その看護師さんの看護に対する姿勢を間近で見て、私も患者さんとそのご家族に寄り添える看



「護師になりたいと思いました」と話しました。

キャンドルサービスでは戴帽生たちの持つキャンドルに、ナイチンゲールの精神を受け継ぐ看護の灯がともされ、皆、看護師になる意識をさらに高めたことと思います。

（済生記者 原 衣里奈）

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 地域住民に向けて講演

飯塚医師会館・講堂で5月13日に開催された市民医療講座で、当院の土田治副院長兼消化器病センター長が「通常検査ではわからない病気の診断・治療」機

能性消化管障害について」と題して講演をしました。

同講座は地元の西日本新聞社が地域貢献活動の一環で行なっているもの。コロナ禍で2020年2月の講座を最後に休止していました。

当日はあいにくの雨でしたが、29人の市民が参加。消化管障害の原因を心療内科の知見を交えて解説し、嚥下体操を試みるなど、土田副院長の熱のこもった講演をみなさん興味深そうに聴講していました。

講演後は参加者から多数の質問が寄せられて「知らないこともあって勉強になりました」との声があちこちからあがりました。今後も地域住民の健康増進のために、幅広く活動できればと考えています。

（済生記者 春口勇介）

〈大分〉日田病院

久しぶりの対面研修会

大分県臨床検査技師会県西地区研修会が5月13日、当院で開催され、会員15人が参加しました。

講師には大分市医師会立アルメイダ病院の渡部亨医師を招き、



令和4年度の生理検査フォトサーベイの解説をしていただきました。

研修会の最後には、当院で判読に困った心電図を提示し、全員で心電図を読み、ディスカッションを行いました。

コロナが5類感染症に引き下げられて初の対面研修会。自分では気づけなかったことを指摘してもらうなど、対面の良さが実感できる研修会となりました。

（臨床検査技師 西村悠希子）

〈広島〉老健はまな荘

介護技能実習評価試験 専門級に2人合格

ベトナム人技能実習生のグエン・テイ・フォンさんとダオ・ティ・ビック・ゴックさんが、外国人技能実習制度の「介護技



能実習評価試験専門級」を受検し、ともに合格しました。

2人とも試験の一カ月ほど前から、実習指導員の職員の猛特訓を受けてきました。試験を受

ける緊張と連日の特訓で、かなり疲れたと思います。

少し休ませてあげたいところですが、これから「N3日本語能力試験」「介護職員初任者研修」と資格試験が続くため、気の休まる日はまだまだ先になりそうです。

技能実習が終了する10月末以降も、彼女たちは特定技能外国人として、引き続きはまな荘に勤務してくれる予定になっています。(済生記者 佐藤 聡)

〈大阪〉中津病院

ラジオ番組に出演

当院の濱中浩孝事務部長が、FM大阪のラジオ番組「WELFARE group presents それU.Kii (「ライブリッジ」) に出演しました。

大阪万博を控えた大阪・関西を盛り上げるため、経営者やアスリートなどをゲストに招き、「イマ」「ミライ」について話をする番組です。今回は医療・介護の分野で頑張っている人をゲストにといいことで、濱中事務部長に声がかかりました。

4月11日の収録では、病院で働くことになっ

たきっかけや、中津医療福祉センター内に4月に開院した大阪北リハビリテーション病院のこと、中津病院が今後、急性期病院としてさらにな変わっていくことなどを話しました。

番組は5月21日に放送され、新しくなった中津医療福祉センターの今をみなさんに伝えることができました。(済生記者 鈴木亜希乃)

鈴木亜希乃

JR西の列車事故訓練にDMATが参加

京都済生会病院

JR西日本が4月28日に実施した列車事故総合訓練に、当院のDMAT（医師1人、看護師3人、業務調整員2人）が参加しました。

列車の先頭車両が脱線、乗客26人が負傷したとの想定で行なわれました。

この訓練は、2005年4月の福知山線列車脱線事故の反省を踏まえ毎年行なわれているもの。今回はJR京都線向日町駅から長岡京駅間を走行中の列車と自動車が踏切で衝突し、機関の第一陣として到着し、合同指揮所（本部）で情報収集や後続隊への活動指示、傷病者情報の管理を行ない、救護所での重症者の診療にも携わりました。訓練終了後の振り返りでは、





DMAT間（本部と救護所）で傷病者の情報を共有し、搬送先などの情報をまとめて関係機関に提供できたことが評価されました。

（総務課長 大塚裕司）

静岡医療福祉センター成人部 気分はパティシエ!!

当センター成人部は毎月恒例のクッキングの活動を5月2日・9日に行ない、「いちごジヤムのミニオムレット」を作りました。

クッキングの活動は毎月2回あり、1回目はその月に見ながら使用食材や調理器具を検討し、調理の手順を考えます。2回目は買い出しと調理を行います。最後に試食します。

5月の参加者は6人。普段は食事のおかずを作ることが多いのですが、今回はスイーツを作るとあって、参

加した利用者さんはいつも以上にやる気満々でした。

最後の試食では、やはり自分で作った料理は格別のように、みなさん「上手にできた、おいしいね」とパロリと平らげっていました。

利用者さんに達成感と同時に試食の満腹感も感じてもらえるクッキングの活動を、今後も続けていきたいです。

（済生記者 小林慈倫）





看護の日に「心」を伝えるイベント実施

〈山口〉 豊浦病院

5月12日の看護の日に、看護部ではささやかなイベントを実施しました。

当院正面玄関で、外来患者さんにはポケットティッシュと付箋を、入院患者さんにはボックスティッシュを手渡しました。患者さんからの笑顔の「ありがとうございますございます」に、心が温まる時間でした。

準備していた当院オリジナルの「災害の備え」リーフレット（災害対策委員作成）も、多くの人が手に取っていただきました。短い時間でしたが、看護の心を

お伝えすることができたと感じています。

新型コロナウイルスは5類に引き下げとなりましたが、油断は禁物です。引き続き感染防止対策を行ないながら、コロナ前に開催していた健康相談や楽器奏者をお招きしての演奏会など、徐々に以前のようなイベントを開催できるように取り組んでいきます。

（済生記者 西田千鶴）

〈大阪〉 千里病院

林亨名誉院長に 憲法記念日知事表彰

当院の林亨名誉院長が「憲法記念日知事表彰」を福祉関係部門で受賞し、5月8日、大阪国際会議場5階メインホールで表彰されました。

林名誉院長は2003年に前身の新千里病院に院長として着任。初代院長として地域住民への医療提供や啓発活動、社会福祉事業としての無料低額診療事業の推進、地域関係機関との協働での生活困窮者への支援に取り組みました。



新千里病院時代から培ってきた登録医制度など、地域の中核病院としての役割を担うとともに、大阪府千里救命救急センター（当時）が当院の救急部門に併合されたことで、一次から三次救急まで対応できる救急医療体制の構築にも尽力しました。

名誉院長となつてからも、引き続き循環器内科医として外来診療を担当。これからお元気で活躍されることを、職員一同願っています。

（済生記者 秋山みゆき）



topics

〈神奈川〉横浜市六浦地域
ケアプラザ

福祉ってなんだろう？ 小学生とともに考える

2月9日、3月7日・13日の3回、当ケアプラザ近隣にある六浦小学校の4年生と授業を通して心と心の交流がありました。はじめに地域の町内会やボランティア活動者、複数の福祉施設の職員と「福祉ってなんだろう」をテーマにグループワークをしました。

好奇心旺盛な子どもたちには、別の日に福祉教育の出前授業を実施。介護やケアマネジャーについての話に真剣に耳を傾け、



実際に福祉用具を使用し、デイサービスのレクリエーションも体験しました。

ほかに、福祉教育の一環として多世代交流カフェ「むうたんカフェ」に飛び入り参加、地域のみなさんに素敵なお花のプレゼントをしてくださいました。また、デイサービスの利用者とはガラス越しの交流も。

この春はとも心温まる日が続きました。優しい気持ちを感じず、成長していつてもらいたいです。

（済生記者 山田和恵）

玄関前で交通安全を呼びかけ

福井県済生会病院

5月11日から始まった春の全国交通安全運動に合わせて、榮修一警備主任が当院正面玄関前の横断歩道に立ち、行き交う車や職員に安全を呼びかけました。

榮警備主任は自身の経験や実際の事例を交えながら、明るい声で交通安全の重要性を訴え、交通事故の予防と安全な行動の大切さを説明しました。行き交う車を見ながら「ドラ



イバーのみなさんは、安全運動意識の向上に努めてほしい」と繰り返していました。

その情熱的な呼びかけと的確なアドバイスにより、横断歩道を利用する人々や運転手、職員たちの交通安全意識を高めることができました。

（済生記者 田中一弥）

〈山口〉下関総合病院 TQM大会に70人

TQM発表大会を5月17日に開催し、院長をはじめ、医師や看護職など、多職種で70人が参加しました。

「医療安全」「感染管理」「品質管理」にテーマを分け、各部署から12の発表がありました。



臨床工学科のデジタル機器を活用した改善事例では、機器の日常点検をバーコードチェックにしたことで、看護師の点検に時間短縮につながったという成果が報告されました。

他には災害対策シミュレーション、早期離床へのリハビリの取り組み、患者サービス向上の取り組み、指標を他院と比較して改善した取り組みなどが発表されました。

森健治院長から「他部署の取り組みを知る良い機会となったと思う。多職種が相互に理解し合い、病院が一体となることを今後も意識して取り組んでほしい」と総評がありました。

（情報システム室 筋田悟朗）

JKK東京と 包括連携協定締結

〔東京〕中央病院

JKK東京（東京都住宅供給公社）と東京都済生会は、JKKが建設・管理する一般賃貸住宅やその地域に住む人々の安全・安心な生活を実現するため、5月18日、済生会本部で包括連携協定を締結しました。

今後、都済生会の中央病院と向島病院は、JKK住宅のコ



ミュニティサロンを活用し、保健・医療・福祉に関する講習や相談会などのソーシャルインクルージョン活動を展開していきます。

コロナ禍による同居者同士や地域とのつながりの希薄化の解消を目的に、子どもから高齢者まで多様な世帯の健康で安全・安心な生活の実現を目指し、より密なコミュニティ形成に協力します。

6月には港区のコミュニティサロンで、当院小児科医が講演と個別相談を行ないます。

（済生記者 鈴木香純）

〔茨城〕常陸大宮済生会病院

研修を兼ねて 新興感染症への対応訓練

常陸大宮済生会病院では3月6・8・13・14・17日5日間、感染対策チーム（ICT）診療部研修と新興感染症訓練を兼ねた「COVID-19挿管・人工呼吸管理シミュレーション」を実施。内科・外科・小児科の医師・看護師や事務員の計47人が参加しました。普段一緒に働くことがないスタッフ同士でしたが、互いに協力しながらスムー



ズに行なうことができました。

今回、手指衛生や個人防護具着脱など、感染対策の重要性を再認識することができたとの意見もあり、チームブリーフィングや振り返りも積極的に行ない、チーム医療の大切さを学ぶ機会となりました。参加者と研修実施担当者には小島正幸院長から、受講証明書と認定証書が授与されました。

COVID-19は5類へ移行となりましたが、今後も訓練を実施し新興感染症に備えます。

（済生記者 小池直人）

コーヒー牛乳で透析！？

〔岡山〕吉備病院

5月13日、地元の高校生を対象に「ふれあい看護体験」を実施しました。参加者は12人。外来診療が休診の土曜日に設定し、実際の医療現場で体験を行ないました。

「このふれあい看護体験で参加してくれた高校生に感動を持って帰ってもらいたい」と森真須美絵看護師長。熱い思いはひらめきにつながり、他では体験できないような充実したラインアップとなりました。

中でも透析装置の実験では、コーヒー牛乳を人間の血液と仮定。透析装置によって身体に必要なもの（牛乳）と不必要なもの（コーヒー）に分けることで、透析装置の役割を知ってもらおうというものです。参加した高校生は真剣な眼差しで、実験にも驚いた様子でした。

昨年同様に人気があったのは、採血シミュレーターでの採血体験です。うまく採血できると、自然と拍手が沸き上がりました。先輩看護師との意見交換も盛



り上がり、進路を真剣に相談したり、会話を楽しんだり、笑い声が絶えず響いていました。

(済生記者 難波美紀)

〈埼玉〉川口総合病院

看護専門学校45期生入学式

澄み渡る青空のもと、川口看護専門学校45期生の入学式が4月10日、同校講堂で行なわれました。

式辞で佐藤英

章学校長は、27人の新入生に二つの大切なメッセージを伝えました。

「一つ目は、朝、笑顔で挨拶をすること。挨拶から相手とのコミュニケーションが始まります。二つ目は、勉強・復習を毎日すること。ただし、土日はしっかり休んでメリハリをつけてくださいね」

新入生を代表



して、松本華奈さんが「夢であった看護の道へ、一步踏み出せたことをうれしく思います。仲間たちと切磋琢磨しながら励みます」と誓いの言葉を述べました。

コロナ禍も経験したこの数年、その中で将来の道として、看護師を志し一步を踏み出してくれたことを心強く思います。

(済生記者 原 衣里奈)

3年ぶりの看護フェア

〔大阪〕中津病院

5月12日は看護の日。当院では毎年、看護の質向上委員会主



催による看護フェアを行なってきました。2020年以降はコロナ禍で開催を見合わせていましたが、今年はコロナが5類感染症へ移行したこともあり、

3年ぶりに看護フェアを小規模で開催しました。

会場では、災害時の医療機関への応援体制や認定看護師の役割紹介、血圧測定、疾患や災害対策のパンフレット配布を行いました。血圧測定には17人の患者さんが参加。外来の合間にポスターやパンフレットを見ている患者さんもいて、職員が質問される場面も。「知りたいこ

〔山形〕特養愛日荘

子ども神輿にワッショイ

5月3日、当施設に子ども神



とが聞けてよかった」との感想をいただきました。

来年度は、外来患者さんと認定看護師や多職種スタッフ（薬剤師・栄養士・理学療法士・MSW・ケアマネジャー）がゆつくり話ができ、相談できる場として、例年通りの活動をしたと考えています。

（済生記者 鈴木亜希乃）

輿がやってきました。

子ども神輿は東沢地区の恒例行事。コロナ禍で過去3年間で止していましたが、今年は4年ぶりに開きました。以前は荘内を練り歩いて、もらっていたのですが、今年は屋外の駐車場や隣接する通路を開放。利用者さんには居室の窓から見てもらいました。

午前10時になると50人ほどの子どもたちと父兄が来てくれました。「ワッショイ！ ワッショイ！」という元気なかけ声が響くと、利用者さんは居室から手を合わせて拝んだり、一緒に「ワッショイ」と



いまいみささんの 最新刊を プレゼント!



いまいみささんの最新刊「子どもから大人まで！折って、飾って、きせかえて 365日 たのしい折り紙」(日東書院5月2日発売)を、本誌「てづくりおもちゃ」と済生会HP「いまいみさの魔法のおりがみ」をご覧の方5人にプレゼントします！ 1枚の折り紙でも作れるモチーフから、12カ月の季節飾りが満載。作品を飾るリースの作り方で紹介しています。

広報室までメールでご応募ください。

koho@saiseikai.or.jp

申し込みは6月末まで。当選は発送をもってかえさせていただきます。

5月3日に開催された「第28回火の国金魚まつり」に、当院

金魚まつりの健康ブースが盛況

熊本病院

声かけたり、手を振ったりして楽しんでいました。子ども神輿は、受け継がれてきた地域の行事に要介護状態でも参加できるとも尊い機会であり、地域との結びつきの大切さを改めて感じました。
(済生記者 高橋 睦)

は主催の長洲町と共同で健康ブースを出展しました。金魚まつりは、全国有数の金魚の産地・長洲町挙げての大イベント。今年も1日あたり2万人以上が参加し、健康ブースにもさまざまな世代の323人が訪れました。展示内容はリハビリテーション室による「足の健康チェック」と、予防医療センターによる「反応速度チェック」です。一時は20人ほどの順番待ちが出る盛況となりました。

参加者からは「長年の足の

悩みが解消されました」「お父さんに反射神経で勝った」「靴ひもの結び方ひとつで、歩きやすさが劇的に変わりました」などのうれしい感想がありました。ちなみに当院の理学療法士1人が金魚すくい選手権に出場し、準決勝に進出しました。
(済生記者 東 賢剛)



topics

〈滋賀〉 守山市民病院

久しぶりの 看護の日イベント

看護の日のイベントとして、5月11・12日の2日間、午前の外来の時間帯に病院ロビーで、くじ引きと手指消毒チェックを行ないました。



久しぶりのイベントということもあり、看護師が声をかけても遠慮がちな人もいましたが、景品のマスクやポケットティッシュを受け取るとみなさん「ありがとう」と笑顔を見せてくれました。

手指消毒チェックでは、消毒しても汚れの落ちにくい部分を確認することで、感染対策を再認識してもらいました。

また、昨年に引き続きロビー近くの壁に、職員の子どもたちによるお母さん・お父さんの似顔絵を展示しました。

カラフルな掲示物は制作が得意な看護師による力作で、来院者の目を楽ませていました。

（済生記者 中嶋 元香）

〈大阪〉 りんくうワークス

就労継続支援優良取組表彰

大阪府が新設した「就労継続支援優良取組表彰」の第1回授賞式が、4月26日に大阪府庁公館で行なわれ、りんくうワーク



スを含む2事業所が表彰を受けました。

応募の際の審査項目として、工賃実績（全国平均工賃月額を上回ること）、前年度一般就労実績、工賃向上や就労支援の取り組みなどがあります。当事業所は就労継続支援 B 型の平均工賃月額が約4万7000円、前年度一般就労実績が1人。おそらく、平均工賃月額が高く評



価されたと思われれます。

当事業所はこれまで、就労継続支援 A 型のイメージが強かったのですが、B 型においても障害年金と合わせ、余暇の充実が図れる高い工賃を目標にできてきました。

受賞の喜びを原動力として、この目標をこれからも目指します。

（施設長 岩本 剛）

劇場版「TOKYO MER」を医療監修

〈東京〉 中央病院

4月28日に公開した劇場版「TOKYO MER」に、当院救急診療科の関根和彦副院長を

はじめ、救急診療科の菅原洋子医師、庄司高裕医師ほか看護師や放射線技師などが、医療監修



後列中央が関根副院長

メンバーとして参加しました。映画には、関根副院長の理想を体現したERカー「Y01」が初登場。ドラマ版のERカー「T01」では施行できなかった放射線科的手術シーンも見ごたえのあるものとなっています。

映画サイトのインタビューの中で、主演の鈴木亮平さんは役を演じる上でのモデルとして関根副院長を挙げています。トリアージを見学した際のどんなな緊急事態でも相手を落ち着かせる穏やかな話し方に着目し、演技に絶対取り入れたいと答えています。

なおパンフレットには、関根副院長のインタビューも掲載されています。エンドロールでは、当院職員の働く姿が多数採用されました。

(済生記者 鈴木香純)

福井県済生会病院 サッカー大会で救命に貢献

サッカーの試合中に心肺停止で倒れた人を救命した宗本義則副院長に、鈴鹿市消防庁から感謝状が授与されました。

それは、三重交通Gスポー

ツの杜鈴鹿グラウンドで3月5日に開催された「西日本OBサッカー連盟中部地域大会」での出来事。試合中に他県の選手が突然倒れたため、別のグラウンドで試合をしていた宗本副院長が呼ばれました。

幸いにも会場にAEDが設置されており、宗本副院長の指示に従って心臓マッサージを実施。鈴鹿消防署とのビデオ通話システムなども使用することで救命することができました。

県内の病院に搬送され、2週間ほどで元気に退院した患者さんから「ありがとうございます。元気になり、また好きなサッカーができるのが何よりです」との感謝の電話を、先日いただきました。

(済生記者 田中一弥)



topics

宮田農園で調理体験

〈熊本〉 済生会ウイズ

4月22日、当施設の日中活動として、宮田農園で調理体験を行いました。

農園に到着するやいなや、利用者さんはエプロンに着替え、各班に分かれてクッキー&ピザ作りを始めました。それぞれが工夫したオリジナルティー满载のクッキーとピザを、宮田農園スタッフが迫力のある窯を使って焼きあげました。

出来たてを一口食べるとすぐに「おいしい」と笑顔が見られ、



私たちもうれしくなりました。スープにコーヒール、おにぎりまで用意してもらい、まさに大満足の活動となりました。

新型コロナウイルスの5類移行で、5月以降は外出する日中活動が増えてきました。今後も必要な感染対策を行なって、みなさんに楽しんでもらえる日中活動を計画します。

(支援員 平生有莉耶)

福岡総合病院

救命救急プロジェクトを4年ぶりにデパートで

「済生会健康フェア(救命救急プロジェクト)」を、5月12日に大丸福岡天神店のイベントスペースで4年ぶりに開催しました。

今回は一次救命処置の体験・指導に加え、救命救急センター医師や認定看護師、管理栄養士または理学療法士による1回30分の講演を4回実施。54人の参加がありました。

「いのちを救うのはあなた」と銘打ち、2012年から開催している救命救急プロジェクト。参加者からは「何度聞いても絶対得する情報だと思ふ」「勉強

になった。また参加したい」などの声がありました。

最後に笑顔で「ありがとうございますお礼の言葉も嬉しい、このイベントを開催する意義を実感しました。今回のイベントの模様はテレビの取材を受け、夕方のニュース・情報番組で放送されました。

(経営企画課 山田愛梨)



〈愛媛〉 松山病院

令和4年度「m-PAD賞」が決定

当院では「m-PAD (mission & message-personal ability development) 賞」として、毎年、優れた取り組みを行なっている部署を病院運営会議で表彰しています。

令和4年度は、リハビリテーション科の「人材育成プランに





三浦將司支部長が退職

福井県済生会病院

されました。

その後、平成21年に福井県済生会医療福祉センター総長、平

長年にわたり
福井県済生会支
部にご尽力いた
だいた三浦將司
前支部長が3月
末をもって退職
されました。

三浦前支部長
は平成12年に福
井県済生会病院
長に就任し、病
院の発展に貢献

基づく新人・専門・役職者の育成基盤構築等」、5階病棟の「看護観の育成、デスクカンファレンス、映像共有システム構築、介護福祉士の学会発表等」、透析科の「スタッフのスキルアップを行わないながら感染対策と業務改善の実施」、栄養科の「新調理システム導入、衛生管理マニュアル作成、洗浄業務直営化」がそれぞれ評価され、受賞。

これらの内容を今後の病院運営の業務改善に取り組んでいきます。

(総務課 藤井一哉)

転ばない歩き方を学ぶ

〈神奈川〉横浜市六浦地域
ケアプラザ

(済生記者 高島 孝)

成26年から福井県済生会支部長を務め、その強いリーダーシップで支部や施設を牽引してきました。

最後の勤務日となった3月31日には、サプライズで登谷大修前院長（4月より支部長）が登壇し、感謝状と花束を贈呈。職員みんなで花道をつくって見送りました。

三浦前支部長のこれまでのご尽力に、職員一同より感謝申し上げます。

若草病院リハビリテーション科理学療法士の入江昭憲氏による「転ばない歩き方」の出張医療講座を、3月15日に開催しました。

入江氏は当ケアプラザのデイサービスを定期的に支援され、デイサービスのPTさんとしておなじみです。

参加者は31人。アンケートを見ると「説明がとても分かりやすく、自分でもできそうだった」という意見が多数ありまし



た。

歩くことに意識を向けるのはなかなか難しく、ましてや癖がついていると変えるのは至難の業。皆で立ち、どこに力をかけるか、どの位置に腰を落とすかなどを実際にやってみました。

真剣に、たまに笑いも交えて、とても有意義な時間でした。またよろしく願います！

(済生記者 山田和恵)

topics

〈大阪〉中津看護専門学校 炭谷茂理事長が特別講義

5月10日、当学校の一年生を対象とした済生会概論の講師に炭谷茂理事長を招き、「済生会はどのような病院なのか」と題した特別講義を担当していただきました。

当日は宇都宮・静岡両校とオンラインで結び、90分間の熱意あふれる講義を約150人の



学生が同時に受講。他の4校はオンデマンドで拝聴しました。

学生からは「済生会の歴史の長さや活動の幅広さを知った」「済生会の一員であることに誇りを持ち、社会貢献できるように尽力していきたい」「弱い立場の人に寄り添い、差別なく全員を助けて救うという精神がすばらしく、自分もそのような看護師を目指したい」などの意見がありました。

済生会の精神を継承していく重要性を強く感じました。

(教員 高木登志子)

〈北海道〉小樽病院

読影スピードが 格段に向上

常勤の放射線診断医として小野寺耕一医師が4月1日に着任しました。

当院にはそれまで常勤の放射線診断医がおらず、CTやMRIの画像を依頼した医師が自分で読影していました。特に診断に困るような症例に限り、週に1度来院する放射線診断医が読影していましたが、緊急症例への

スピーディーな対応は難しい状況にありました。

小野寺医師の着任以降、CTとMRIが全件読影されるようになり、読影スピードが格段に向上しました。また、緊急画像所見については直接主治医に電話で伝えられるようになり、臨床医の負担も大幅に軽減されました。

カンファレンスの際には画像読影のポイントを教えてもらえるので、研修医や専攻医をはじめ臨床医のみなさんに大変喜ばれています。

(済生記者 松尾覚志)



〈福岡〉二日市病院 ミツバチプロジェクトを 支援

当院は5月19日、NPO法人博多ミツバチプロジェクトのメディアカルパートナーに就任しました。

同プロジェクトは、ビルの屋上や植物園、ゴルフ場などさま



ざまな場所でミツバチを育成し、自然豊かな街づくりを支援しています。また、環境問題に関する啓発活動や、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を取り入れた環境教育にも取り組んでいます。

今後、ミツバチによるアナフィラキシーが起きた際の救急患



者受け入れや、子どもたちの環境教育への講師派遣などで同団体を支援していきます。

私たちの周囲から緑が少しずつ失われ、ミツバチなどの昆虫を目にする機会も以前より減っています。未来に自然豊かな環境を残すために、当院の支援がその活動の一助となれば幸いです。

(経営戦略課長補佐

木山浩平)

地域の小学生が施設見学

〈長野〉特養シルバーランドみつ

当施設からほど近い佐久市立東小学校の3年生25人が、5月12日に「地域を知る授業」の一環で施設見学に來所しました。

当施設が建つ場所には元々、三井小学校があり、平成2年に近くの志賀小学校と統合して、新たに東小学校が開校しました。

三井小学校の跡地に建てられたのが、シルバーランドみつなのです。当施設の職員が子どもたちにその歴史を説明し、今も敷地内に残る二宮金次郎像などを見てもらいました。

生徒たちからは「おじいちゃんの家で昔の学校の写真を見たことがあり、勉強になった」などの感想がありました。

これからも地域との交流を通して、施設のことを知ってもらえればと思います。

(済生記者 大森 智)

〈神奈川〉金沢若草園

麒麟ビバレッジで職業体験

当園の就労継続支援B型事業の利用者が、5月17日に東京麒麟ビバレッジ横浜支店で職業体験を行いました。

当園は令和3年度に、職業体験などに協力をいただくことに関して同事業所と合意。昨年5月から毎月2回、園の飲料自動販売機の商品補充などの実習を行なってきました。

今回はより実際の就労に近い職業体験をすることを目指し、利用者5人・職員3

人が参加。横浜支店内での商品のピッキングや配送の準備作業を体験しました。

藤本武園長は「ソーシャルインクルージョンに取り組む済生会の一員として、障害者が住み慣れた地域でその人らしい人生を送ることができるよう全力で支援していきたい」と抱負を語りました。

この職業体験は5月31日にも行なわれました。

(総務課 田中なおみ)





組織人としての学びから

〈宮崎〉日向病院

4月に入職した新人看護師9人の研修を、4月6日から5月2日の約1カ月間かけて実施しました。

例年だと専門分野の看護の研修が主になりますが、今回は松田聖美看護部長の「日向病院の組織人として学んでもらいたい」というポリシーから、院内17カ所を4班に分かれてローテーションしながら学ぶことに。

病院は患者さんに直接医療を施す職員だけで成り立っているのではなく、院内のさまざまな部署でいろいろな役割を持って働く職員が存在することで成り立っている。この研修を通して、深く感じ取ってもらえたと思います。

研修の終わりには、宮崎県済生会の支部長室を訪問、金丸吉昌支部長から激励の言葉をいただきました。

新人看護師たちは、次に始まる看護師研修に意欲を湧かせて

いました。

（済生記者 村尾 愛）

和歌山病院

クラウドファンディングに成功

移転から約20年が経過し、手

術室設備や医療機器、診療に必要な器械類などが耐用年数を超えた当院では、このほどクラウドファンディングに挑戦しました。

特に老朽化が進んでいたのがベッドで、患者さんはもちろん看護師やスタッフの身体的負担は日に日に増していました。

ありがとうございます



そこで、電動ベッド50台の導入に必要な寄付金1500万円を目標に、3月1日からクラウドファンディングを実施。ありがたいことに3月14日には早くも第一目標の700万円に到達。4月25日には1500万円、最終的には300人以上の人から2000万円を超える寄付をいただくことができました。

川上守院長は

topics

「和歌山病院に寄付してよかったと思っただけいけないようにスタッフ一同頑張っています」と感謝の意を表しました。

(済生記者 松元靖寿)

〈三重〉 明和病院

明和グループ入職式

明和グループの入職式を4月3日に開催しました。看護部に



は11人の看護職員に加え、当院初となるネパール国籍の介護職員1人が採用されました。

当日は富本秀和院長からの辞令交付に続き、午後から看護部で認知症のグループワークを行いました。

中でも「認知症ケアに必要なこと」を課題にしたグループワークでは、生活の視点でとらえること、観察を通してケアに

つなげること、環境を整えることなど、具体策の提案が出されたことに驚かされました。

私たち看護教育委員は「新人たちが明和グループの一員としての自覚を持ち、チームで協力し合いながら前進していくてくれる」と確信しました。

今後も新入職者の成長を楽しみに見守

りたいと思います。

(看護部教育委員 田上由美)

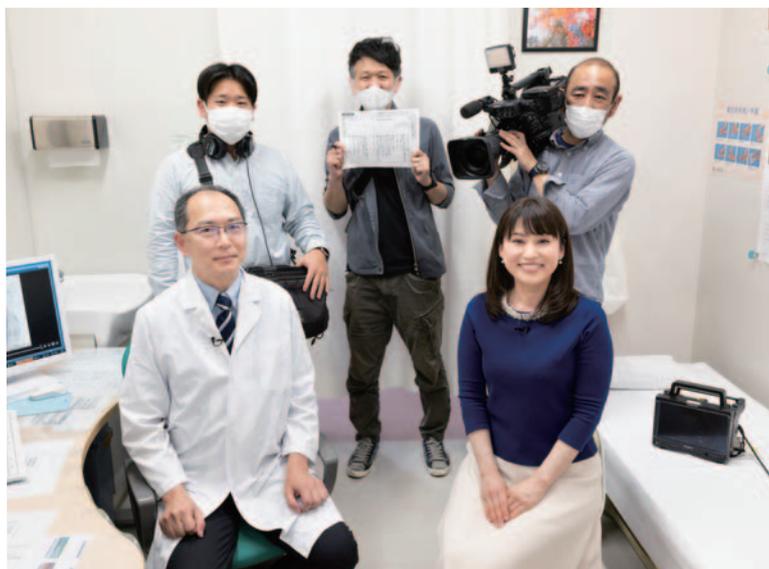
〈山口〉 下関総合病院

テレビ局のインタビュー

伊東博史副院長兼心臓血管外科科長が、4月20日、「心臓弁膜症の症状と治療法」というテーマで地元テレビ局のインタビューを受けました。

はじめは少し緊張気味の伊東副院長でしたが、すぐにリラックスした様子に。心臓弁膜症とは何か、どのような症状か、治療法にはどのようなものがあるかなど、分かりやすく答えていました。

番組制作の舞台裏を初めて見学した筆者は、現場スタッフの絶妙なチームプレーやディレク



ターの和気あいあいとした雰囲気づくりにすっかり感心しました。

当院は心臓手術ではTAVIやMICSなど、患者さんに負担の少ない手術を積極的に取り入れています。こうしたインタビューを通して、一人でも多

く患者さんが助かることを願っています。

(済生記者・広報委員

安岡佳成)

topics

〔千葉〕 習志野病院 救急隊職員に座学講義

当院で受け入れている救急救命士就業前研修・再教育研修の一環として、習志野市消防本部



警防課の救急救命士をはじめとした救急隊職員に向けた座学講義を5月17日に開催しました。

今回は、感染管理室主任看護師（感染症看護専門看護師）の関口和宏さんが感染防御の基本について講義を行ない、ハイブリッド方式で習志野消防各分署へ配信しました。

感染症対策全般に加え、新型

コロナ5類移行後の感染対策を含む内容には救急救命士からの質問も寄せられ、有意義な研修となりました。

救急関連の知識の共有は救急搬送をはじめとした消防隊との連携に重要な研修です。今後の講義は神経救急、脳梗塞、バイタルサイン等実践的な内容を予定しています。

（総務課 佐藤昌明）

〔福岡〕 二日市病院 「イオンに」なでしこルーム

「持続可能なまちづくり協定」を締結しているイオンモール筑



紫野から、コロナで使用しなくなった喫煙ルームを当院で活用しないかとの申し出があり、このほどありがたくお受けすることになりました。

まずはその部屋を「なでしこルーム」と命名。毎月第三水曜日に月替わりで各種相談会を実施する計画で、4月は「無料低額診療に関する相談」を、5月は「介護福祉相談」を実施しました。

残念ながら相談者はまだなく、認知度も低いままですが、通りかかった人たちが「何をやっているの?」とチラシを手にとって興味を示す場面もありました。

継続していくことで地域住民の医療・福祉へのアクセスポイントの役割を果たしたいと考えています。今後は「健康相談」や「栄養相談」も予定しています。

（経営戦略課長 清田照代）

〔三重〕 明和病院 磁気刺激とリハビリ併用で患者さんの目標を達成

クラウドファンディングにより導入した反復性経頭蓋磁気刺



激装置を使用した「NEUROリハ（集中的リハビリテーション）」を4月17日～28日に初め



て実施しました。

今回実施した集中的リハビリテーションは、磁気刺激治療にて脳を低頻度で刺激することで、病巣側の脳を活性化させるというものです。

患者さんの希望は、左手で味噌汁を飲みたいとのことでした。希望を達成するためにトレーニング内容を検討し、平日毎日2時間のリハビリと自主トレーニングを行ないました。

この治療は磁気刺激だけではなくリハビリと併用し、他の時間も自主トレーニングや実生活での使用頻度を上げていくことで効果が高まります。

最終的には茶碗を左手で持ち、味噌汁を飲むという目標を達成できました。今後も磁気刺激装置を活用し、患者さんに寄り添ってリハビリをしてまいります。

（作業療法士 荒木洋人）

〈神奈川県〉横浜市東部病院 4年ぶりのコンサート

神奈川県フィルハーモニー管弦楽団のコンサートが、5月18日、重症心身障害児（者）施設サルビアのプレイルームで開催されました。

同コンサートはここ数年、新型コロナウイルスの影響で中止となり、開催は4年ぶりです。今回はバイオリン2人とヴィオラ、チェロから成る弦楽四重奏で、アンコールを含め計7曲が演奏されました。

クラシックからデイズニー、J・P・O.P.、童謡と多岐にわたるナンバーが弦楽器の美しい音色に乗せて披露され、プレイルームいっぱい集まった入所者さんは楽しそうに体を動かしたり、声をあげたりしていました。

（済生記者 荒木愛美）

静岡済生会総合病院

ダヴィンチの 保険適用が進む

当院では昨年10月に念願の内視鏡手術支援ロボット「da Vinci サージカルシステム」を導入。12月から、結腸がんと前立腺がんの手術を開始しました。da Vinci サージカルシステムを使用した手術は、出血量が少なく合併症のリスクを回避できるなど、患者さんの身体的負担を軽減することができます。

術者にとっても術中の視野が安定し、細やかな作業がしやす

いため、より安全な手術が行なえます。

このほど必要症例件数に達したため、施設基準届出を行ない、5月より腹腔鏡下結腸悪性腫瘍手術の保険算定が可能となりました。

順調に症例数を重ねるダヴィンチ。6月には、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍切除術でも保険適用となる予定です。

（済生記者 酒井あい）



topics

感染対策を学ぶ第一歩！

長崎病院

新人職員感染対策研修を4月5日に開催しました。

今年度の参加者は31人（研修医7人・看護師16人・薬剤師2人・臨床検査技師2人・准看護師1人・看護助手3人）。感染管理認定看護師の林田久美さんから、感染症の基礎知識、環境整備、手指衛生などの講義を受けました。



講義終了後は実演です。4グループに分かれ、感染委員のメンバーから個人防護具（PPE）の正しい着脱方法と手洗い方法の実技指導を受けました。

講義中は真剣な表情で話を聞いていた新人職員でしたが、初めてのPPE装着に「誰だか分からない」と緩んだ表情を見せる人も。

「ガウンを脱ぐときに気が緩むことがあるから、気をつけるようにね」と、感染委員に注意される場面もありました。

（済生記者 平川幸子）

熊本病院

LADY'S DAYで健康J

院内のメデイカルフィットネスセンターで、女性職員向けの健康啓発イベントである「LADY'S DAY」を4月28日に開催しました。

当日は日本ヨガ療法学会からインストラクターを招き、「こことからだを整えるヨーガ」と「音楽に合わせて体を動かすZUMBA」を実施。31人が参加し、コミュニケーションを取りながら心身ともにリフレッシュしました。



2019年4月に「健康経営」を宣言した当院。所管する職員健康管理室ではLADY'S DAYのほか「ヘルシーウマイレシピコンテスト」、減量した体重がお米・プロテインドリンクとして支給される「体重買いく」として支給される「体重買いく取りキャンペーン」など、楽しみながら続けられるさまざまな取り組みを企画して、職員の健康づくりをサポートしています。

（済生記者 東 賢剛）

QC大会で最優秀賞

〔北海道〕小樽病院

昨年度のQC大会の表彰式が5月1日に病院長室で行なわれ、最優秀賞に輝いた臨床工学



室チームの及川尚也さん・中野裕城子さんに、和田卓郎病院長から表彰状と副賞が授与されました。

臨床工学室の取り組みは、4年前に着手したが中断してしまった「透析装置キレイキレイ計画」について再度向き合ったもの。透析業務に従事している臨床工学技士全員で取り組むこと



10周年を迎えた「つどい」

〈兵庫〉特養ふじの里

を目標に、みんなが問題なく取り組むためのマニュアルを作成しました。

コロナ過の影響もあり、参加チーム数は例年よりも少なかったのですが、今年度のQC大会は無事開催され、コロナが5類になった5月8日にキックオフをしました。コロナ過前のように複数の部署からエントリーされることを期待しています。
(QC活動実行委員会 伝法俊和)

神戸市北区では一番早く、平成25年に開設した認知症デイサービスの「つどい」が、5月1日で開設10周年を迎えました。開設当時は週3日営業・定員10人だったのが、利用者が増えるにつれて週6日

営業となり、現在は定員12人、平均8〜9人の利用者が来所します。

1日は赤飯と天ぶらの実演でお祝いをしました。それから1

週間は、毎日写真を見ながら10年のあゆみを振り返りました。

利用者やゆっくり関われる「つどい」では、利用者の笑顔が多く見られたり、お風呂に入れなかった利用者が入るようになったり、ご家族にも大変喜ばれています。

これからも一日一日を大切に、笑顔が多く見られる楽しいデイサービス「つどい」でありたいと思います。そのために職員一同が一層きめ細かなサポートを提供できるよう心がけていきます。
(生活相談員 竹垣内一撃)

「済生会人」となるために

奈良病院・中和病院・御所病院・老健シルバーケアまほろばの新規採用者83人が参加する新規採用職員等研修を、4月25日にシルバーケアまほろばの会議室で開催しました。

当日は、「新たに「済生会人」となるみなさんへ」と題した炭谷茂理理事長のメッセージ動画を視聴。今川敦史支部長から「済生会の理念と役割」、奥田善之常務理事から「済生会における

仕事の進め方」についての講義も行なわれました。

今回は新たな取り組みとして職種別にグループを編成し「真の「済生会人」になるにはどうすべきか」をテーマにグループワークを実施しました。

普段は接する機会の少ない他施設の人々とグループを組み、みなさん最初は緊張の面持ちでしたが、ときに笑い声も飛び交うなど和気あいあいとした雰囲気の中、活発な意見交換がなされました。

(済生会記者 藤川羽衣)





看護の日のパネルで華やかに

〈埼玉〉加須病院

5月8日からの看護週間に合わせ、看護部ではその活動を紹介するポスターを作成し、外来通路に掲示しました。

移転開院後初めての看護の日のイベントです。まずは患者さんに「看護の日」を知っていただけるよう、「看護の日とは？」などをまとめたポスターを作成しました。

さらに各病棟などで工夫を凝らしたポスターを15枚展示。患者さんからは「色使いがきれいですてきね」「華やかね」「いつもお世話になってる人の顔が見ることができてうれしい」などのお言葉をいただき、地域のみなさんに看護に関心を持っていただくよい機会になりました。来年度は血圧測定や健康相談など多彩なブースを設置し、より多くの人に当院の看護を知っていただくきっかけの一つにしたいと考えています。

（済生記者 蓬田絵里子）



へき地支援を行なっている内科医

生まれ育った土地で 最期まで その思いに寄り添いたい

〈三重〉松阪総合病院

筆者は5月8日、津市から135キロ南に位置する南牟婁郡御浜町の尾呂志診療所へ診療支援に行ってきました。久々に来ると、なんと遠いこと。患者さんの大変さを再認識しました。

筆者は現職に就く前の11年間、へき地医療に携わってきました。当時は「どんなに不便でも、生



まれ育ったこの土地で最期まで生きていきたい」という患者さんの気持ちに寄り添いたいと思っていました。十分な検査や物品のない場所で診察する不安を何度も感じましたが、いつも患者さんとスタッフに助けられ、医師としても成長させてもらいました。

今回の診療支援に内科の後輩たちも「私も経験してみたい」と積極的に手を挙げてくれ、実際にを行っています。彼女たちにも筆者の思いを少し感じてもらえたのかもしれない。

患者さんからは「遠いところからありがとう」と言われ、久々にほっこりした一日でした。

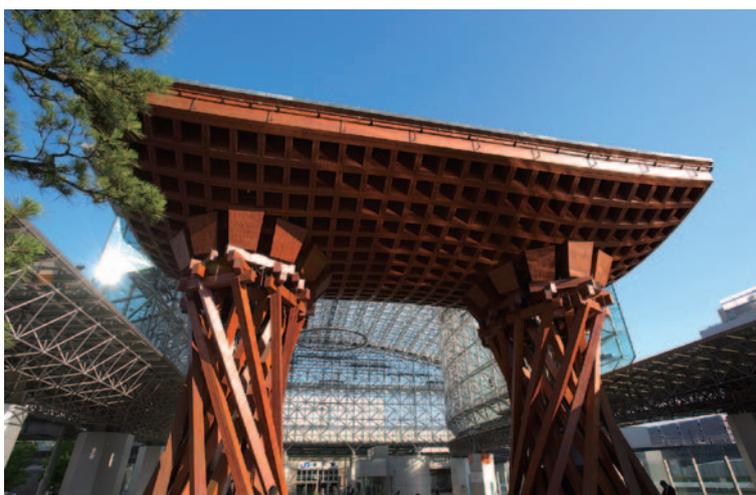
（診療部 内科 野田真理子）



第6回 済生会リハビリテーション研究会

IN KANAZAWA

ソーシャルインクルージョンの実現を目指して
～今、リハビリテーションにできること～



JR金沢駅東口 鼓門
© 石川県観光連盟

開催日 **令和5年11月25日(土)**

時間 **12:40～18:00**

開場は11:00
からとなります

大会長 **荒木 勉** 石川県済生会金沢病院
病院長

会場 **金沢東急ホテル** 石川県
金沢市香林坊2-1-1



特別講演

講師 テレビ金沢アナウンサー **塚田 誉氏**



シンポジウム

「いきいきと地域で生活するために ～リハビリテーションの可能性を探る～」



一般演題発表・ポスター展示

「われらのソーシャルインクルージョン」



懇親会 [事前申し込み制]

参加費

研究会 **2,000円**

懇親会 **6,000円**

※懇親会はメールにて事前申込制(事務局まで) 締め切り: 8月25日(金)

問い合わせ・懇親会申し込み

第6回済生会リハビリテーション研究会運営事務局

石川県済生会金沢病院総務課内
〒920-0353 石川県金沢市赤土町二13番6号
TEL: 076-266-1060 FAX: 076-266-1070

事務局アドレス: rehabilitation1125@saiseikaikanazawa.jp
病院URL: <https://saiseikaikanazawa.jp>
※病院ホームページから研究会特設サイトへアクセスできます。

topics

40人を永年勤続表彰

〈埼玉〉川口総合病院

勤続年数が10年を超える職員を対象にした「永年勤続表彰式」を、4月19日、当院講堂で催しました。



今年の表彰者は、勤続30年が9人、20年が6人、10年が25人の計40人で、各人に表彰状と記念品が佐藤雅彦病院長から贈られました。

勤続30年の高橋亮支渉外課長が代表謝辞を務めて「私自身の功績としては何も思い当たりませんが、目の前にある仕事や相談されたことを一生懸命すべてやってきた、という自負はあります。これからも渉外課として、病院の安心安全な環境づくりのお役に立てるよう、前向きに働いていきたい」と話しました。

長きにわたる日々は楽しい思い出ばかりではなく、いろいろな大変だったこと、苦労したことなどたくさんあったと思います。諸先輩方のためまぬ努力を見習い、私たちも励んでいきます。(済生記者 原 衣里奈)

〈愛媛〉松山老健にぎたつ苑

初めての茶にほっと一息

3月にハートフル済生会の1階に完成した家族面会室のこけら落としも兼ねて、4月20日にお茶会を催しました。

久しぶりのお抹茶と新しくできた面会室のお披露目で、参



加した17人の入居者さんはとても喜んでいました。

ボランティアのお茶の先生の小紋の着物の桜のすかし、藤の花の練り菓子、ヤマブキの花や鯉のぼりの柄のお抹茶茶碗など、この季節ならではの雰囲気生まれ、春らしい穏やかな時間となりました。

他部署からも33人のスタッフが参加。年度はじめの気忙しい

職場体験学習で学生の夢を

鹿児島病院

日常から一息ゆつくりとした時間を過ごしてもらえたのではないかと思います。
入居者さんやスタッフみんなの心と身体の表情が和らいだ久しぶりの行事ができました。
(松山在宅生活復帰支援センター
ハートフル済生会管理者
細川美佐)

今年度から再開した職場体験学習で、市内2校の中学3年生計8人を5月に受け入れました。生徒さんには各職種の業務を体験してもらいました。

鹿児島市立武中学校の4人は5月16日から2日間の日程で参

加。生徒たちは「車いす体験で」片手片足だけの移動は大変。患者さんの気持ちが分かりました」などと話していました。また「医薬品開発関係、薬剤師、医師、看護師になりたい」と一人ひとりが真剣に将来の夢を語る姿に頼もしさを感じました。

職場体験学習は未来を担う若者の勤労観、職業観の育成に役立ちます。地域貢献に取り組みながら生徒さんの夢をかなえる

活動を、鹿児島病院はこれからも応援します。

(済生記者 竹中康代)



〈埼玉〉加須病院

鮎ヶ瀬看護部長に 看護功労者知事表彰

埼玉県看護功労者知事表彰授賞式が5月12日、知事公館で行なわれ、当院の鮎ヶ瀬光子看護部長が表彰されました。

埼玉県は5月12日の「看護の日」と、7日から13日までの「看

護週間」にちなみ、多年にわたる看護業務に携わり功績を残した職員を知事表彰しました。

今回表彰されたのは、看護師や助産師、保健師など22人。大野元裕県知事は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う看護職員の協力に感謝の意を伝えた上で、職員一人ひとりに賞状を手渡しました。鮎ヶ瀬看護部長は「コロナが



5類に移行し、これからは共存していく厳しい状況となる。地域みなさんに安心して医療を受けていただけるよう、重症な患者さんでもしっかりと看護できるように、人材育成をさらに強化していきたい」と述べました。

(経営企画課 蓬田絵里子)

〈山形〉特養ながまち荘

気づいていますか 「ヒアリングフレイル」

ながまち荘がデイサービス利用者を対象に聴き取る機能の衰えである「ヒアリングフレイル」のチェックの様子が、5月11日にテレビユー山形で放送されました。

認知症の最大発症リスクといわれる難聴。当荘では山形大学

医学部、山形市医師会、山形県言語聴覚士会といった団体が推進する「聴こえくつきり事業」に取り組んでいます。この日に行なわれた、アプリを使っの言語聞き取り能力テストもその一環です。

ヒアリングフレイルに関する取り組みは、聴力低下予防・医療機関の早期受診等につながることはもちろん、職員と利用者が適切な方法でコミュニケーションを取れるようになるなどの介護の質の向上も期待できると考えています。

(済生記者 高見友郁)



320列CT導入で質の高い医療の提供へ

〈山口〉 下関総合病院

当院はCT装置の更新に伴い、5月16日、320列CTの「Aquilion ONE」を導入しました。

この装置はAI技術を用いた画像再構成で、これまで以上に画質の向上や被ばく線量の低減が望めます。

また心臓検査では寝台移動をせずに1回転で撮影することが

できるため、不整脈や心拍変動のある患者さんにも、従来に比べて動きの影響を抑えた画像の提供が可能になりました。

320列CT装置導入を契機に、質の高い医療をもつて地域医療へのさらなる貢献に努めてまいります。

（診療放射線技師 吉田達矢）

〈愛媛〉 西条老健いしづち苑
介護ロボットをテレビ取材

2月21日、県からの推薦があり「介護現場が抱える課題」について、愛媛朝日テレビの取材を受けました。



Z世代の人材確保を

滋賀県病院

5月12日は「看護の日」、そしてその日を含む1週間は「看護週間」です。当院は毎年、この期間には高齢者を対象としたイベントなどを実施してきました。しかし今年は、県の看護協会が掲げる「看護の人材確保」という目的に沿った内容となるよう、筆者らが中心となって企画を練り直しました。

当院ではZ世代を対象とした看護の人材確保につながるため、病院ホームページにある「看護師アクティビティレポ

ト」を中心に、院内掲示板や広報誌などを通じて看護師の活躍場面の掲載し、魅力ある看護をアピールしました。



今回の取り組みが看護の人材確保につながることを期待しています。

（中央手術室看護係長

佐々木光隆）



介護現場での大きな課題の一つが人材不足であり、それに代わる介護ロボットが、今注目されています。当院では一昨年12月、見守り型の介護ロボット「眠りSCAN」を全床導入しました。当日は使用している機器の紹介や活用状況などを撮影。職員負担が軽減できているの

topics



1歳児クラスで製作した手形・足形鯉のぼり

か、現場の介護士のインタビューも行ないました。

ロボット導入におけるコストパフォーマンズや、現在の人材確保の課題、介護報酬改定などを常光謙輔苑長が説明しました。

この模様は2月27日夕方の「スーパーJチャンネルえひめ」で放送されました。
(事務長心得 曾我部晴美)

鯉のぼりをつくろう

こどもの日を前に2歳児クラスでは、4月7日・10日・11日の3日間に分けて鯉のぼりを製作しました。

まずは好きな色の画用紙を選び、スタンプや筆を使った絵の具でのお絵描きに挑戦。鯉のぼりにすてきな模様を描き、集中

〈山形〉はやぶさ保育園

して取り組む姿がありました。「きれい」「面白い」と楽しんでる声も聞こえ、製作後はノリノリで鯉のぼりの歌を口ずさむ様子も見られました。園庭で実際に空に泳いでいる鯉のぼりを見上げると「すごいー」「おっきーい」と大喜び。友だちと自分の思いを共有し合う姿に成長を感じることができました。



1歳児クラスでは、手形や足形での鯉のぼり製作を楽しみました。(済生記者 齋藤里奈)

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

Dr・中島の配信番組公開

京都済生会病院 中島診療部長

医師・医療従事者のための臨床医学チャンネル(動画配信サイト)「CareNeTV」に、当院の中島智樹診療部長の配信番組「Dr・中島の総合内科専門医試験実戦120問パーフェクト解説(全12回)」が5月11日に公開された。

当院の総合診療内科部長・感染制御部長でもある中島智樹医師が、総合内科専門医試験の出題傾向を踏まえた模擬問題を120問を独自に作成。実際の症例をベースにした



問題を中心に全分野にわたって出題し、病態の詳細な解明と治療戦略まで解説している。一度聞いたら忘れない、クスツと笑える語呂合わせ暗

記法も必見とのこと。試験対策以外にも臨床力アップにも役立つ当番組は、現在、第1回（1〜10問）が公開中。（企画広報室室長 松岡志穂）

新病院の特長や取り組みなどについて紹介

京都済生会病院

「日本病院会雑誌」2023年4月号（日本病院会）の病院紹介に、

2022年6月に新築移転した当院が掲載された。記事は、救急・手術室・HCU・内視鏡センターなどの拡充、新たな放射線機器の導入などの急性期医療の充実に加え、新病院移転を機に取り組んだ電子ピクトグラムなどのDX化推進、「地域で暮らす」をサポートする患者総合サポートセンターの新設や個室率46%などの特長にも触れている。

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、ご報告ください。

手先が器用でいいなあ

4月に開設した地域小規模児童養育施設「あおば」に配属された、新任職員の小川祐輝さん。生活支援を



はじめ、掃除・洗濯、食事づくりなど、日々子どもたちの支援にあたっています。子どもたちの体操服に名札を縫い付けるのもお手のもの。裁縫の経験を聞くと「一通りのことはできます」とのことです。裁縫が苦手な私は裁縫が苦手……手先が器用でうらやましい！

（静岡・川奈臨海学園 済生記者 鈴木一大）

★私も鈴木さんと同じく裁縫が苦手です……。小川さん、取材に行った際にはコツを教えてください！

（本部広報室 杉山菜央）

旬のたけのこを食す

なでしこ小規模特養では4月17日、入居者さんのご家族からいただ

そのほか、産学連携によるホスピタルアートの導入、障害者支援団体が運営するカフェの誘致、地域イベントへの出展や済生会フェアの開催など、行政、企業、団体などと連携した取り組みを紹介。済生会精神を当院設立から新病院に移転した今も変わらずに引き継ぎ、^{おとくに}乙訓地域唯一の公的医療機関として「出産」から「みどり」まで暮らしに寄り添い、地



いた旬の立派なたけのこを「たけのこご飯」にして、入居者さん29人にふるまいました。

炊きあがったご飯はとってもいい香りがして、食欲をそそります。たけのこは柔らかく、ほんのりとやさしい味付けが絶品！

これには入居者さんも「とてもおいしい」と大満足。普段は食事を残さず食べることが難しい人でも、きれいに召し上がる姿が見られました。たけのこご飯を通して、春を感じることができました。

（兵庫・特養ふじの里 ユニトリリーダー 高木政幸）

★春と味覚といえば、たけのこご飯。あの香りと旨味がたまらない……私もこの春何度か楽しみました。

（メデイカル・リーフ 坂本陽子）

実物よりおいしそう？!

主治医から教えていただき、ある患者さんのお部屋に伺い、スケッチブックを見せていただきました。

描かれていたのは、実物よりずっとおいしそうなお給食のイラスト。「退院後に、病院での給食を家族に見せよう」と思って、毎食描いているのよ！



域に貢献していくと締めくくられている。（済生記者 白須優也）

とその患者さん。

これまでも、退院後の食事の参考にと給食を写真撮影する患者さんはいましたが、イラストでの記録は初めて。栄養科スタッフにも回覧させていただきました。

見事なイラストに気持ちがあほっこり癒やされると同時に、よりおいしい給食づくりへの意欲が湧いてきました。

（新潟病院 栄養科 治田麻理子）
★なんて繊細な色使い……と思わず見惚れてしまいました。心のこもった味が伝わってきます。

（メデイカル・リーフ 富谷咲希）



鯉のぼり荘内を泳ぐ

当施設の1階から3階にあるホールでは4月末から、地域住民や利用者さんの家族から寄贈された13匹の大小さまざまな鯉のぼりが泳いでい



ました。

屋外ではなくすべて荘内に設置したのは、利用者さんに天気に関係なく間近で見てもらいたいのと、季節感や懐かしさを感じてもらいたいから。みなさん、鯉のぼりを見上げ「近くで見ると大きいなあ」と驚いたり、「○○さんの家には鯉のぼりあった？」という声かけが生まれたり、自宅にいたころを振り返り話に花が咲きます。懐かしい話に加え、子ど

広告索引

三井住友銀行
——表紙見返し [表紙 2]

アクサ生命保険(株)
富国生命保険(相)
日本生命保険(相)
第一生命保険(株)
大樹生命保険(株)
明治安田生命保険(相)
——裏表紙 [表紙 4]

次号予告

済生 No.1129
[令和5年7月号]

済生会の不易流行論 (178)
炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 岸慎一郎

口福にっぽん (70)
盛岡冷麺 (岩手県盛岡市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

もや孫のエピソードなど話も聞かえてきました。

最近では自宅に大きな鯉のぼりを泳がせているところが減っているようですが、昔ながらの大きな鯉のぼりを毎年楽しんでもらいたいと思います。

（山形・特養愛日荘 済生記者 高橋 睦）

★この距離感には迫力がありますね！目やウロコの大きさを間近で感じてみたい。皆さん楽しそうだなあ。

（本部広報室 河内淳史）

東京湾の不思議発見！ 絵本で

学ぶ海の環境問題とSDGs

以前、済生会中央病院で勤務していた絵本作家・もりみつたつやさん（ペンネーム）から本部看護室長・樋口幸子宛てに1冊の絵本が届きました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、自宅待機生活を送っているときに、文章を書くことが好きだったため、子供が科学や自然環境に対して関心を高めることができる絵本を今年の初夏に『ぼくのふるさととは、どこだろう』として出版したそうです。

皆さんはホンビノス貝を知っていますか？ 主に東京湾に生息する味も形もハマグリによく似た外来の貝です。そんなホンビノス貝をモチーフにした「ホンちゃん」が海に住む生き物たちにヒントをもらいながら、自分はどこからやってきたのかを探る、わくわくしながら心があたたまるお話です。東京湾の多様な生物、四季折々の景色などすてきな絵がどのページにも広がっています。



また、東京湾周辺の済生会施設27カ所に1冊ずつ寄贈していただけるそうです。もりみつさんありがとうございます！ 皆さんもぜひ読んでみてくださいね。

(本部広報室 杉山菜央)

藤田さん、ありがとうございます！

5月8日、巻頭の「NEWSな済生人」取材のため、「和歌山」有田病

院を訪問しました。

取材は午後だったのですが、午前中は昨年12月に移転新築した特養潮光園を見学。本誌4月号「済生会交差点」に登場した介護士の藤田真央さんに会ってきました。

藤田さんは、矢継ぎ早の質問に、はるかしそくに微笑みながら、仕事のこと、好きな食べ物など一つひとつ丁寧に話してくれました。

突然の訪問でおどろかせてごめね。東京に来ることがあったら僕たちがおいしいオムライスのお店をご案内します。またね！

(本部広報室 河内淳史)



藤田さん(右から2人目)と事務責任者の山崎さん(左から2人目)



済生会

明治44年2月
11日、明治天皇
は、時の総理大臣
桂太郎を召さ

れて「恵まれない人々のために施薬
救療による済生の道を広めるよう
に」との済生勅語に添えてお手元金
150万円を下賜された。桂総理は
この御下賜金を基金として全国の官
民から寄付金を募って同年5月30日
財団法人済生会を創立した。

以来今日まで111年、社会経済
情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗
り越えるなど幾多の変遷を経ながら
も、本会は「施薬救療」という創立
の精神を引き継いで保健・医療・福
祉の充実・発展に必要な諸事業に取
り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の
指定、同27年に社会福祉法人の認可
を受け、現在、社会福祉法人財団法人
済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂

本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
病院 81

診療所 19

介護医療院 1

介護老人保健施設 29

救護施設 1

児童福祉施設 25

老人福祉施設 122

障害者福祉施設 9

看護師養成施設 7

訪問看護ステーション 63

地域包括支援センター 31

地域生活定着支援センター 5

その他 10

合計 403 (数字は令和3年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の59島の診療活動に携わっている。

職員数は全国で約6万4000人。

済生 [令和5年6月号]

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和5年6月10日発行

通巻第1128号 (第99巻第6号)

編集兼
発行人 炭谷 茂

発行所 社会福祉法人財団法人済生会

〒108-0073

東京都港区三田1-4-28

三田国際ビルディング21階

TEL: 03-3454-3311 (代)

FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人財団法人済生会

● 買って！得して！社会貢献！

PRIMO

このサイトは、ソーシャルインクルージョン・SDGsの推進を目的としたショッピングサイトです。

SHOP



社会貢献型ショッピングサイト



タータンキルト商品も販売中！

北海道
厳選☆
グルメ

各商品限定 500 個
送料・消費税込み価格



期間限定お買い得特選商品！
(6/1 受付開始～7/31 受付終了)

ぷりもぱっそが厳選した北海道グルメを
お手頃価格でお届けします。
お中元・夏ギフトとして最適な商品です。



※沖縄県及び離島は配送の都合上お届けできません。 <https://primoshop.stores.jp>

おたる夢市場 詰合せセット

5,400 円



トンデンファーム

トンデンファームギフト FT-30A

3,240 円



ヤマヘウミヘ prin.ce 酔プリン 6 個
4,320 円

なまら十勝野
北海道産とうきび (イエロー種) 8 本
3,240 円



ノベルズ食品

十勝ハーブ牛のコンビーフ白と黒 3 缶
4,860 円



末廣軒×なないろキッチン
北海道冷やしぜんざい 3 種 6 本セット
3,996 円



就労継続支援 B 型事業所
北海道済生会ぷりもぱっそ

小樽市築港 10 番 1 号

☎ 0134-32-9780

p-shop@hokkaido-saiseikai.jp

濟生会グループ保険のご案内

スケールメリットを活かした、
個人保険に比べて
割安な保険料で
大きな死亡保障を!!

グループ保険

〔災害割増特約・こども特約・
こども災害割増特約付福祉団体定期保険〕

(本人・配偶者・こども対象)

診査がなく(告知のみ)
手続きが簡単なうえ、
剰余金があれば
契約者配当金が戻ります。



① 終身医療保障プラン

〔手術給付特約・手術補完給付特約・
先進医療給付特約(12)・死亡保険金不担
保特約(入院保障保険(終身型 09)用)付
入院保障保険(終身型 09)(60日型)〕

② 総合医療あんしんプラン

〔総合医療保険(団体型)〕

(本人・配偶者・こども対象)

2つの保険より、
選択できます。



第二の人生を
充実させるために
今からご準備を!!

ゆうゆうライフプラン

〔拠出型企業年金保険、
医療給付金付個人定期保険〕

(本人のみ対象)



濟生会グループ保険の次回一斉募集は、
令和5年7月下旬にご案内予定です。



※このご案内は商品の概要を説明しています。ご契約の際には、「パンフレット」「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」を必ずご覧ください。

〔グループ保険・ゆうゆうライフプラン引受保険会社〕

アクサ生命保険株式会社 [事務幹事会社]
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社
第一生命保険株式会社 大樹生命保険株式会社
明治安田生命保険相互会社

〔医療保険引受保険会社〕

アクサ生命保険株式会社 (終身医療保障プラン)
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 (総合医療あんしんプラン)
法人サービスセンター
電話 0120-563-925
【受付時間 月曜日～金曜日9:00～17:00(祝日・12/31～1/3はお取り扱いしておりません)】

〔グループ保険・ゆうゆうライフプラン・終身医療保障プラン お問合せ先〕

アクサ生命保険株式会社 制度推進部
【照会先】法人ビジネス業務部
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7450

〔総合医療あんしんプラン担当営業部〕

日本生命保険相互会社 公務第一部
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1 電話 03(5533)5085

Form No.0D2313(10.0) AXA-A1-2202-0122/9F7 2023.02.01